

## バーコードハンディターミナル BT-600シリーズ

### ユーザーズマニュアル

お使いになる前に、このマニュアルをお読みください。  
お読みになった後は、いつでも使用できるように大切に  
保管してください。



# はじめに

本マニュアルは、《バーコードハンディターミナル BT-600》(以後BT-600)、《バーコードハンディターミナル(Bluetooth搭載) BT-600B》とそれに関連するソフトウェアの概要、警告、注意事項などをまとめたものです。

ご使用になる前に必ずお読みください。また、いつでもご利用いただけるように大切に保管してください。

## ■BT-600シリーズ関連マニュアル

BT-600シリーズをご使用時は、次のマニュアルを合わせてお読みください。

各マニュアルは、以下のWEBページからダウンロードできます。

<http://www.keyence.co.jp/bt600man/>

### ●CD-ROMに収録




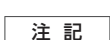
マニュアルの種類	マニュアルの内容	BT-H10W	BT-HD10
ユーザーズマニュアル	本マニュアルです。 BT-600シリーズの使用上の注意、各部の名称、充電方法、USBドライバのインストール方法、仕様などについて説明しています。	○	○


### ●当社WEBページからダウンロード


マニュアルの種類	マニュアルの内容	BT-600/600B	
		BT-H10W	BT-HD10
BT-Navigator アプリケーション 開発マニュアル	BTアプリケーションビルダを使った端末アプリケーション開発手順、操作方法、シミュレーション方法について説明しています。	○	—
スクリプト リファレンス	BT-600シリーズ用のスクリプト言語について説明しています。	○	—
BT-HD10 アプリケーション 開発マニュアル	C言語によるアプリケーションの開発手順について説明しています。	—	○
端末ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するために必要なライブラリの関数について説明しています。	—	○
通信ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズとサーバPC間でファイルを送受信するアプリケーション開発で使用するライブラリの関数について説明しています。 通信ライブラリは、DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。	○	○
BT-MD1 ユーザーズマニュアル	BT専用アナログモデムBT-MD1の使用上の注意、使用方法、接続方法について説明しています。	○	○
BTアプリケーション デバッグ操作 マニュアル	スクリプト言語、C言語両方に対応したデバッガであるBTアプリケーションデバッガを使った開発方法、デバッグ方法を説明しています。	○	○
システムメニュー 操作マニュアル	BT-600シリーズのシステムメニューの操作方法について説明しています。	○	○
データ転送ソフト 操作マニュアル	BT-Navigator、BT-HD10で使用するデータ転送ソフトの操作方法について説明しています。	○	○


## ■記号の見方


本マニュアルでは、重要な部分を次の表記で示しています。人への危害や物品への損害を未然に防ぐため、必ず守ってください。

 危険	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、結果的に死亡又は重傷を引き起こす危害が発生します。
 警告	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、結果的に死亡又は重傷を引き起こす危害が発生する可能性があります。
 注意	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、中程度の傷害又は軽傷を引き起こす危害が発生する可能性があります。
 注記	ここに記載されている記載事項を遵守しない場合、商品自体の損害（自損）のみならず、他の財物に対する損傷を引き起こす可能性があります。

 重要 かならずおこなう操作などについての注意を示しています。

 ポイント 誤りやすい操作などについての注意を示しています。

 参考 本文の理解を深める事項や、知っておくと役に立つ情報を示しています。

 関連する情報が記載されているページやマニュアルを示しています。

- IrDA(Infrared Data Association)：赤外線標準化協議会
- RCR(Research & Development Center for Radio System)：社団法人電波システム開発センター
- Bluetooth® ワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. の所有物であり、キーエンスは許可を受けて使用しています。他の商標または商標名は、各所有者に帰属します。
- その他、本マニュアルに記載されている会社名、および製品名は、それぞれ各社の登録商標または商標です。
- 本マニュアルの一部または全部を無断で使用、複製することはできません。
- 本マニュアルに記載されている情報は、予告なく変更される場合があります。

# レーザー商品に関する注意事項

BT-600シリーズは、可視光半導体レーザーを使用しています。BT-600シリーズは、JIS C 6802に基づき以下のよう分類されます。



注意

ここに規定した以外の手順による制御及び調整は、危険なレーザー放射の被ばくをもたらします。

項目	BT-600/600B
波長	655nm
出力	1.0mW
レーザークラス	クラス2レーザー製品(JIS C6802)



注意

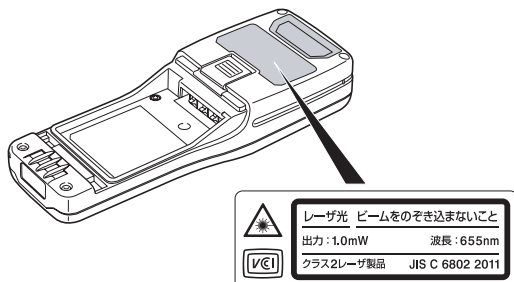
## クラス2レーザー製品に関して

人体（目や皮膚など）に障害を引き起こす可能性がありますので、以下の事項を必ず遵守してください。

- この商品は、分解時にレーザー光の放射を停止する機構を備えていません。絶対に分解しないでください。
- レーザー光、および鏡面反射光を凝視しないでください。
- レーザー光を意図的に人に向けしないでください。
- レーザー光の光路に十分な配慮をしてください。レーザー光が鏡面反射 / 拡散反射され、その反射光にさらされる危険がある場合は、その反射光を遮る囲いで覆ってください。
- レーザーの光路が目の高さにならないように設置してください。

## ● レーザに関する警告ラベルの貼り付け位置

### BT-600/600B



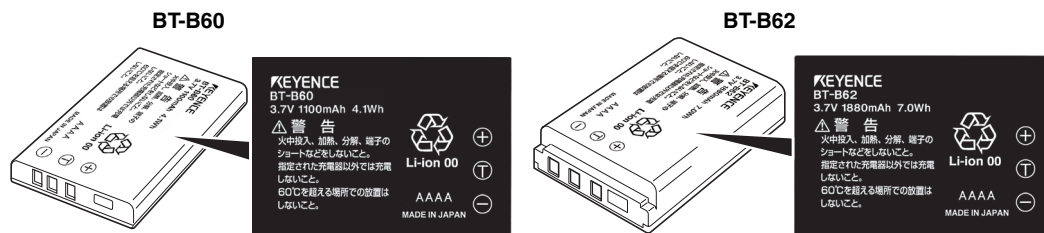
# 安全にご使用いただくために

## ■一般的な注意事項

<b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人体、および人体の一部を保護する目的でこの商品を使用してはいけません。</li><li>・ この商品は、防爆エリアで使用することを想定していない商品ですので、防爆エリアでは決して使用しないでください。</li></ul>
<b>注意</b>	機器が万一故障した場合、各種の損害を防止するための十分な安全対策を施してください。
<b>注記</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 仕様に示された規格以外でのご使用、または改造された製品については、機能および性能の保証はできませんのでご留意ください。</li><li>・ 機器を組み合わせてご使用になる場合、使用条件、環境などにより、機能および性能を十分に発揮できない場合がありますので、よくご検討のうえ、ご使用ください。</li><li>・ 液晶パネルは条件によって、微細な斑点(黒点・輝点)や明るさのムラ、クロストーク(本来存在しない線や模様が表示される現象)が発生する場合があります。</li><li>・ 液晶の特性上、長時間、同じ画面を表示し続けると、残像が発生する場合があります。</li></ul>

## ■充電電池パック(BT-B60/B62)の取り扱いについて

### ●充電電池に関する警告の記載位置



### ●充電電池のリサイクルについて

キーエンスでは、一般社団法人JBRCに加盟し小型充電式電池のリサイクルに取り組んでいます。回収はJBRCが窓口となりますので、JBRCに処理方法をご相談ください。回収・リサイクルにご協力をお願いします。

お問い合わせ先


一般社団法人JBRC

TEL:03-6403-5673


ホームページ: <http://www.jbrc.com>

## ■充電電池使用上の注意

<b>警告</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 充電電池パックの使用、充電、保管時に異臭を発したり、発熱をしたり、変色、変形、その他、今までと異なることに気づいたときは、本体または充電器から取り出し、使用しないでください。そのまま使用すると充電電池パックが発熱する、破裂、発火する原因となるおそれがあります。</li><li>・ 充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を中止してください。充電電池パックが発熱、破裂、発火する原因となるおそれがあります。</li><li>・ 充電電池パックが液漏れしたり、異臭がするときは、直ちに火気から遠ざけてください。液漏れした電解液に引火し、破裂、発火する原因となります。</li><li>・ 火中への投入は、充電電池パックの破裂により重大な事故を引き起こすおそれがありますので、絶対におこなわないでください。</li><li>・ 水中への投入は、充電電池パックの化学変化による事故発生の危険がありますので、絶対におこなわないでください。</li></ul>
-----------	--

<div>  <b>注意</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>端子のショートは充電電池パックの損傷や発熱の原因になるだけでなく、瞬間的に大電流が流れて火傷や焼損をもたらすこともありますので、十分注意してください。</li> <li>万一、液漏れした液が目に入った時は、目をこすらずに直ちにきれいな水で洗い流したあと、すぐに医師の治療を受けてください。放置すると目に傷害を負う危険性があります。</li> <li>万一、充電電池パックから漏れた液が皮膚に付着した場合は、すぐにきれいな水で十分洗い流してください。皮膚かぶれの原因になります。</li> </ul>
<div> <b>注記</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BT-600 シリーズを長期間使用しない場合は、内部データのバックアップを取ったあと、充電電池パックを抜いて保存してください。ただし、充電電池パックの寿命・性能の維持のため、少なくとも 6 ヶ月に 1 度は充電してください。</li> <li>強い衝撃を与えたり、落としたりしないでください。機器の故障の原因となります。</li> <li>高温になった車の中や炎天下など、高い温度になる場所に放置しないでください。また、同様の環境下で使用しないでください。充電電池パックの発熱、発火、寿命、性能の低下につながります。</li> <li>充電電池パックは充電時: 0 ~ + 40 °C、使用時: - 5 ~ + 50 °C の環境で使用してください。これ以外の温度で使用すると、充電電池パックの発熱、破損、寿命、性能の低下の原因となることがあります。</li> <li>指定の充電器以外での充電は絶対にしないでください。機器の故障の原因となります。</li> <li>充電電池パックを、BT-600 シリーズ以外の機器には絶対に使用しないでください。使用条件が異なる機器で使用した場合、充電電池パックの劣化を早めたり機器を損傷したりすることがあります。</li> <li>充電電池パックの分解、改造、直接はんだ付けは絶対にしないでください。</li> </ul>

## ■乾電池パック(BT-B65)の取り扱いについて

<div>  <b>注意</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ショート、+・- の逆接続、加熱、分解、火に入れるなどしないでください。アルカリ性溶液が漏れて目に入ったり、発熱、破裂などの原因となります。</li> <li>電池を携行・保管するときは、金属製のネックレス・ヘアピン・コイン・鍵などの電気を通すものと一緒にしないでください。電池の+・- がショート（短絡）し、発熱、液漏れ、破裂、消耗などのおそれがあります。</li> <li>電池は、乳幼児の手の届かない所に置いてください。電池を飲み込んだ場合は、すぐに医師と相談してください。</li> <li>万一、アルカリ性溶液が皮膚や衣服に付着した場合はきれいな水で洗い流し、目に入ったときはきれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。</li> </ul>
<div> <b>注記</b> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>水や海水に濡らさないでください。電池の発熱やサビの原因となります。</li> <li>液漏れしたり、変色、変形、その他異常があったときは使用しないでください。</li> <li>新しい電池と使用した電池、他の種類の電池をまぜて使わないでください。</li> <li>使いきった電池はすぐに BT-600 シリーズから取り出してください。</li> <li>電池に直接はんだ付けしないでください。</li> <li>直射日光・高温・多湿の場所を避けて保管してください。</li> <li>外装缶（ラベル）をはがしたり、キズをつけないでください。</li> </ul>

## ■BT-600シリーズの取り扱いについて

<div data-bbox="203 318 312 351" data-label="Section-Header"> <h3>警告</h3> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65、BT-CG35 で充電する場合、充電端子部に異物がないか必ず確認してください。異物等があると発熱、発火のおそれがあり、火災発生の原因となります。</li> <li>BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65、BT-CG35 の AC アダプタの AC 電源接続プラグ部のほこりの付着に注意し、定期的に清掃してください。トラッキング現象により火災発生の危険があります。また、長期間使用しない場合は、AC 電源から抜いてください。</li> </ul>
<div data-bbox="203 801 312 834" data-label="Section-Header"> <h3>注 記</h3> </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>BT-600 シリーズ右側面のブザー穴に針など先の尖ったものを挿入しないでください。防水シートが破損するおそれがあります。</li> <li>BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65、BT-CG35 は付属の AC アダプタをご使用ください。これ以外の AC アダプタを使用した場合は破損のおそれがあります。</li> <li>☐「4-1 仕様」(4-2 ページ)に記載されている使用温度範囲でご使用ください。窓を閉め切った自動車の中や、直射日光が当たる場所に放置しないでください。故障の原因となります。</li> <li>☐「4-1 仕様」(4-2 ページ)に記載されている使用湿度範囲でご使用ください。急激な温度変化が生じる場合、結露するようなところでは使用しないでください。故障やバーコード読み取り失敗の原因となります。</li> <li>本機は精密機械ですので、落下させたり、強い衝撃を加えると、破損する恐れがあります。持ち運びの際、ご使用の際は十分ご注意ください。</li> <li>BT-600 シリーズは、日本国内でのみ使用されることを前提に設計、製造されています。日本国外では使用しないでください。</li> <li>BT-600 シリーズを湿気やホコリの多い場所などに置かないでください。また、装置の近くにクリップなどの小さな金属物を置かないでください。火災や故障の原因となります。</li> <li>BT-600 シリーズには、標準充電電池パック BT-B60、大容量充電電池パック BT-B62、乾電池パック BT-B65 のいずれかを使用してください。指定以外の電池を使用すると、本来の性能を発揮できません。また、発火や液漏れによる故障の原因となるおそれがあります。</li> <li>BT-600 シリーズの保護構造は IP54 となっておりますが、「電池取付カバー」が正しく取り付けられていないと、これを満足することはできません。水や粉塵などがある環境で使用される場合は、これらが正しく取り付けられていることを確認してください。</li> </ul>

## ■Bluetoothについて

### 警告

医療機関での無線機器使用禁止場所や医療電気機器の近くでは、BT-600Bの主電池を取り外してください。埋め込み型心臓ペースメーカー装置部からは離して携行、ご使用ください。

### 重要

- 本機の分解、改造は電波法で禁じられていますので、絶対におこなわないでください。本機は、日本国電波法に基づく特定小電力無線設備に該当し、電波法に定められる基準に従って工事設計認証を取得しております。
- 使用する環境によっては、通信できない場合がありますので、本格導入する前に、必ず試験的な運用テストを実施してください。
- 無線LAN機器、電子レンジ、工業用加熱設備、医療用高周波設備など本機と同一周波数帯を使用する機器の近くで使用すると、電波干渉が発生し、通信速度が低下したり通信ができなくなる場合があります。
- 無線LANとBluetoothを同時使用すると、電波干渉が発生し、通信速度の低下や通信が切断される場合があります。通信に支障がでる場合は、無線LAN、Bluetoothいずれかの使用を停止してください。
- 金属物の近く、金属粉の多い場所、金属壁で囲まれた場所では通信できない場合があります。
- 通信可能距離の目安は見通しで約10mですが、10m以内であっても使用環境により通信できない場合があります。導入前に必ず通信確認をおこなってください。
- この機器の使用周波数帯では、産業・科学・医療用機器等のほか工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局(免許を要する無線局)及び特定小電力無線局(免許を要しない無線局)が運用されています。
  1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運営されていないことを確認してください。
  2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が生じた場合には、電波を停止した上、下記連絡先にご連絡いただき、混信回避のための処置等(例えば、パーティションの設置など)についてご相談ください。
  3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局に対して電波干渉事例が発生した場合など、何かお困りのことが起きた場合は、次の連絡先にお問い合わせください。

連絡先: 株式会社キーエンス 電話: 06-6379-1151

2.4	FH	1
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

2.4 : 2.4GHz帯を使用する無線設備を表す

FH : 変調方式がFH-SSであることを表す

1 : 想定される干渉距離を表す(≤10m)

☐☐☐ : 全帯域を使用し、かつ、移動体識別装置域を回避不可であることを意味する



## ■電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づく情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、ラジオやテレビジョン受信機に近接して使用すると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。装置により、以下のクラスに分類されます。

型式	クラス
BT-600、BT-600B、BT-UC6U、BT-UC6R、BT-UC6L、BT-UC65	B
BT-CG35	A

### BT-CG35について

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

## ■保守について

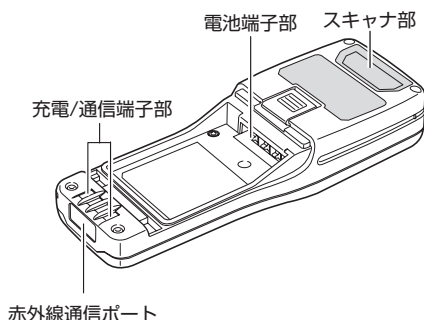
BT-600 シリーズの下部および関連充電器の接点は、月一回程度、エアブローや、乾いた柔らかい布等で清掃してください。汚れが取りにくい場合は無水エタノールをご使用ください。

BT-600シリーズの電池端子部の清掃は、電池取付カバーを外しておこなってください。

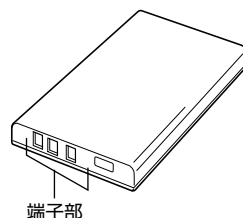
清掃前には、ACアダプタや通信ケーブルを抜いてください。

充電電池パック取付部カバーの外し方については、「1章 ご使用になる前に」の「充電電池パックの取り付けと充電」を参照してください。

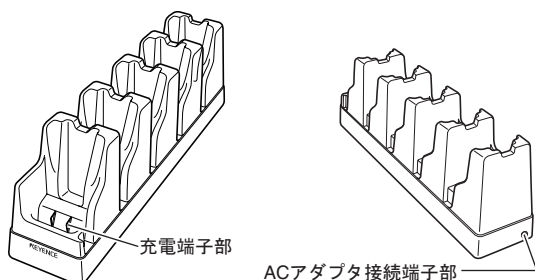
### BT-600シリーズ



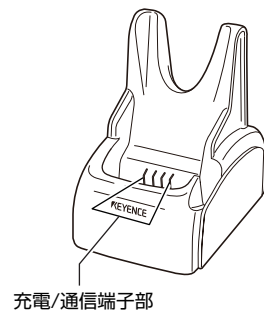
### BT-B60/B62/B65



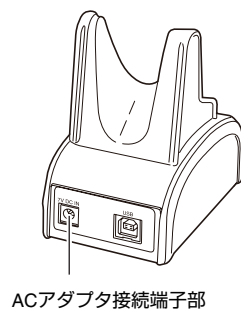
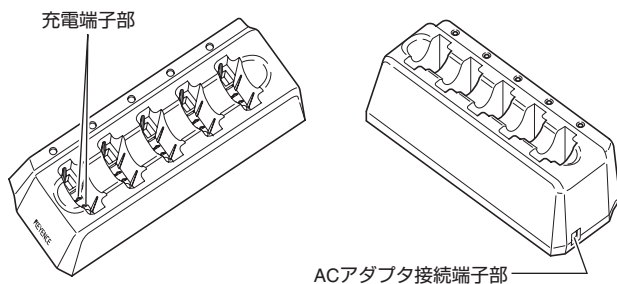
### BT-UC65



### BT-UC6U/UC6R/UC6L



### BT-CG35



#### 注 記

汚れやゴミが付着すると、電池 / 充電 / 通信端子部の接触が悪くなり、充電機能の低下や瞬断の原因になります。清掃の際においても、布の繊維クズが電池 / 充電 / 通信端子部に付着しないように注意してください。

- 充電 / 通信端子付近にゴミが付着した状態で、着脱を繰り返すと、充電 / 通信端子が傷つくおそれがあります。
- BT-UC6U/UC6R/UC6L/BT-UC65 の充電 / 通信端子部の接点部は、奥に押し込むと変形の原因となります。上から下に弾くように清掃してください。

# マニュアルの読みかた

このマニュアルで使用されている用語や記号について説明します。

## ■用語について

用語	説明
BT-600	《バーコードハンディターミナル BT-600》を示します。
BT-600B	《バーコードハンディターミナル BT-600B》を示します。Bluetoothを搭載したタイプです。
BT-B60	専用標準充電電池パックを示します。
BT-B62	専用大容量充電電池パックを示します。
BT-B65	専用乾電池パックを示します。
BT-UC6U	USB通信ユニットを示します。
BT-UC6R	RS-232C通信ユニットを示します。
BT-UC6L	LAN通信ユニットを示します。
BT-UC65	5連充電ユニットを示します。
BT-CG35	充電電池用5連充電ユニットを示します。
BT-H10W	BT-600シリーズ用ミドルウェアパッケージ「BT-Navigator」です。「アプリケーションビルダ」など、BT-600シリーズを使用したアプリケーション開発用ソフトウェアを収録しています。
BT-HD10	C言語アプリケーション開発キットです。C言語統合開発環境(GAIOフレームワーク)や開発に必要なライブラリ(端末アプリケーション開発用、PCアプリケーション開発用)や、その他開発に使用するソフトウェアを収録しています。
BT-HD10L	C言語アプリケーション開発キットです。C言語統合開発環境(GAIOフレームワーク)や開発に必要なライブラリ(端末アプリケーション開発用、PCアプリケーション開発用)や、その他開発に使用するソフトウェアを収録しています。コンパイラのライセンスは含まれていません。
PCアプリケーション	パソコン上で動作するアプリケーションです。ユーザで作成する必要があります。

## ■記号について

このマニュアルでは、次のような記号を使ってメニューやボタンなどを表しています。

記 号	説 明
【 】	画面上のメニュー名です。
[ ]	ウィンドウ、ダイアログボックス、タブ、およびこれらの画面上の項目名です。
[ ]	ダイアログボックスなどのボタン名です。
「 」	画面上のメッセージまたは本書内の参照先タイトル、および強調の意味を示しています。
『 』	参照先が関連マニュアルの場合のマニュアル名を示します。

# ソフトウェアの使用許諾条項

ソフトウェアBT-H10W/HD10/HD10Lは、お客様が以下のソフトウェア使用許諾契約(以下「本契約」といいます)にご同意いただけることが、ご使用の条件となっております。お客様が本ソフトウェアの全部または一部を使用または複製した場合、本契約のすべての条項にご同意いただいたものとし、本契約は成立します。

## 第1条(使用権の許諾)

- 1 お客様における本契約の遵守を条件として、株式会社キーエンス(以下「当社」といいます)は、お客様に本ソフトウェアの非独占的な使用権を許諾します。
- 2 お客様は、本ソフトウェアを1台のコンピュータにインストールすることができます。また、本ソフトウェアをインストールした1台のコンピュータは、複数のユーザーにご使用いただくことができます。

## 第2条(複製の制限)

お客様は、本ソフトウェアのバックアップを保有する目的でのみ、1回に限り、本ソフトウェアを複製することができるものとします。

## 第3条(禁止事項)

本ソフトウェアについて、お客様における以下の行為を禁止します。

- a. 本ソフトウェアの機能の一部または全部を変更、追加する等の改変行為。ただし、当社が提供する更新プログラムや追加機能のインストール等、当社より明示的に許諾されている行為を除く。
- b. 逆コンパイルまたは逆アセンブル等、本ソフトウェアを解析するための一切のリバースエンジニアリング行為。
- c. 本ソフトウェアおよび当社より提供された本ソフトウェアのライセンスキー等を、第三者に対して再販売、譲渡、再配布、使用許諾、レンタル、リース等する行為。ただし、当社より事前に了承を得ている場合を除く。

## 第4条(著作権)

本ソフトウェアおよび本ソフトウェアのマニュアル等に関する著作権は、当社に帰属します。

## 第5条(免責)

当社は、本ソフトウェアを使用した結果により生じた、お客様もしくは第三者の損害に対して、いかなる責任も負わないものとします。

## 第6条(サポート)

当社は本契約に基づき、当ソフトウェアに関するお客様の質問事項等について、技術サポートを提供します。ただし、当社の技術サポートによって、お客様の目的が達成されることをお約束するものではありません。

## 第7条(契約の終了)

- 1 お客様が本ソフトウェアおよび複製物を破棄する等の手段によって、本ソフトウェアの使用を中止した時点をもって、本契約は自動的に終了するものとします。
- 2 お客様が本契約のいずれかの条項に違反した場合は、当社は本契約を一方的に解除することができます。この場合、本ソフトウェアおよび複製物は、直ちに当社へ返却または破棄していただくものとします。
- 3 お客様が本契約に違反したことに起因して、当社に損害が生じた場合は、お客様は当該損害を当社に賠償するものとします。

## 第8条(根拠法令)

本契約は、日本国法に準拠するものとします。

※ 本製品は、アドバンスソフトウェア株式会社の著作物である「VB-BarCode」を再配布条件に基づき使用しています。

アドバンスソフトウェア株式会社の著作物はバックアップの目的以外では一切の複写を許可しません。

# マニュアルの構成

<b>1章</b>	ご使用になる前に	BT-600シリーズのパッケージ内容確認、各部の名称、専用電池の取り付け、充電電池の充電方法などについて説明しています。
<b>2章</b>	システム構成	BT-H10W、BT-HD10を使用して、アプリケーション開発をする場合のシステム構成について説明します。
<b>3章</b>	基本的な操作と機能	BT-600シリーズの基本的な操作と機能について説明します。
<b>4章</b>	仕 様	BT-600シリーズとその周辺機器の仕様を記載しています。
	付 録	エラー表示についての説明およびテスト用のバーコード、索引を収録しています。

1

2

3

4

付

# 目 次

はじめに	
レーザ商品に関する注意事項	2
安全にご使用いただくために	3
マニュアルの読みかた	9
ソフトウェアの使用許諾条項	10
マニュアルの構成	11
目 次	12

## 1章 ご使用になる前に

1-1	梱包内容を確認する	1-2
	BT-600/600B(ハンディターミナル)のパッケージ内容	1-2
	BT-B60(標準充電電池パック)のパッケージ内容	1-2
	BT-B62(大容量充電電池パック)のパッケージ内容	1-2
	BT-B65(乾電池パック)のパッケージ内容	1-2
	BT-UC6U(USB通信ユニット)のパッケージ内容	1-3
	BT-UC6R(RS-232C通信ユニット)のパッケージ内容	1-3
	BT-UC6L(LAN通信ユニット)のパッケージ内容	1-3
	BT-UC65(5連充電ユニット)のパッケージ内容	1-3
	BT-CG35(充電池用5連充電ユニット)のパッケージ内容	1-4
	BT-A15(標準充電電池パック用スペーサ)のパッケージ内容	1-4
	接触読みアタッチメント(OP-87386)のパッケージ内容	1-4
	BT-H10W(BT-Navigator)のパッケージ内容	1-5
	BT-HD10/HD10L(C言語アプリケーション開発キット)のパッケージ内容	1-5
1-2	各部の名称	1-6
	BT-600/600B	1-6
	キー操作部とステータス表示	1-7
	BT-UC6U(USB通信ユニット)	1-10
	BT-UC6R(RS-232C通信ユニット)	1-10
	BT-UC6L(LAN通信ユニット)	1-11
	BT-UC65(5連充電ユニット)	1-11
	BT-CG35(充電池用5連充電ユニット)	1-12
1-3	接触読みアタッチメントの取り付け方法	1-13
1-4	専用電池の取り付けと充電	1-14
	電池について	1-14
	パッキンの点検	1-15
	充電電池パックの取り付けと充電	1-16
	乾電池パックの取り付けと交換方法	1-22
	電源をONする	1-24
	省電力機能について	1-24
1-5	通信ユニットの設定	1-25
	USBドライバのインストール(BT-UC6U)	1-25
	ネットワーク設定(BT-UC6L)	1-31

## 2章 システム構成

2-1	システム構成	2-2
	システム構成	2-2
	ソフトウェア構成	2-6
	システム構築方法	2-9
	通信経路とシステム構築方法対応図	2-17
	マニュアル一覧	2-18

## 3章 基本的な操作と機能

3-1	基本的な操作と機能	3-2
	バーコードの読み取り	3-2
	文字の入力方法	3-6
	電卓機能	3-11
3-2	その他の機能	3-12
	便利機能	3-12
	ウェイクアップ機能	3-14
	自動バックアップ機能	3-15

## 4章 仕 様

4-1	仕 様	4-2
	一般仕様	4-2
	バーコード読み取り桁数	4-4
	通信ユニット	4-5
	充電電池パック	4-5
	充電ユニット	4-6
4-2	外形寸法図	4-7

## 付 録

1	BT-600 シリーズのエラー表示	付-2
2	BT-UC6R の RS-232C ピン配置	付-3
3	テスト用バーコード	付-4
4	索 引	付-6

---

## MEMO



# ご使用になる前に

BT-600シリーズのパッケージ内容確認、各部の名称、専用電池の取り付け、充電電池の充電方法などについて説明しています。

---

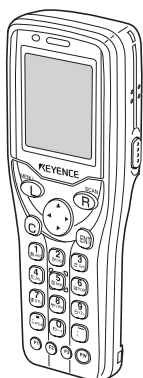
1-1	梱包内容を確認する .....	1-2
1-2	各部の名称 .....	1-6
1-3	接触読みアタッチメントの取り付け方法 .....	1-13
1-4	専用電池の取り付けと充電 .....	1-14
1-5	通信ユニットの設定 .....	1-25

# 1-1 梱包内容を確認する

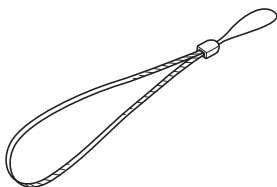
BT-600シリーズのパッケージを開けたら、まず、次のものが揃っているかをお確かめください。  
万一、足りないもの、不良、破損などがありましたら最寄りの営業所へご連絡ください。

## BT-600/600B(ハンディターミナル)のパッケージ内容

BT-600/600B本体…1



ストラップ…1

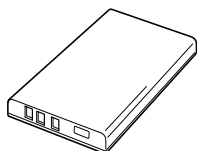


取扱説明書…1

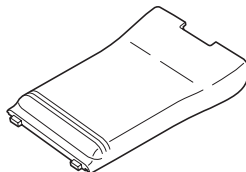
※電池取付カバーは本体に付属していません。  
各電池パックに専用のものが同梱されています。

## BT-B60(標準充電電池パック)のパッケージ内容

BT-B60本体…1



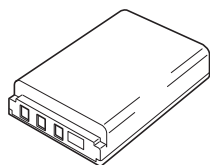
BT-B60用取付カバー…1



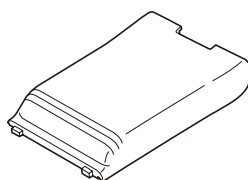
取扱説明書…1

## BT-B62(大容量充電電池パック)のパッケージ内容

BT-B62本体…1



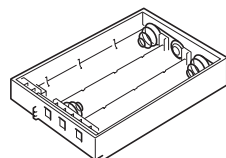
BT-B62用取付カバー…1



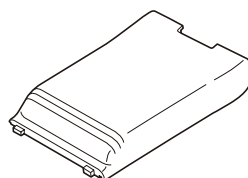
取扱説明書…1

## BT-B65(乾電池パック)のパッケージ内容

BT-B65本体…1



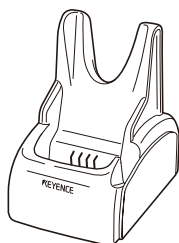
BT-B65用取付カバー…1



取扱説明書…1

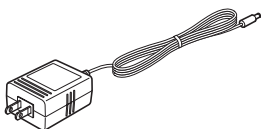
**BT-UC6U(USB通信ユニット)のパッケージ内容**

BT-UC6U本体…1

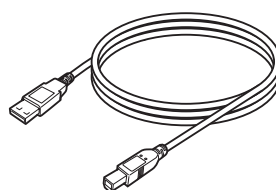


取扱説明書…1

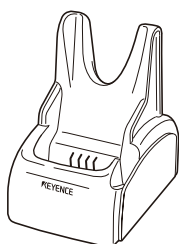
BT-UC6U用ACアダプタ…1



USBケーブル(約2m)…1

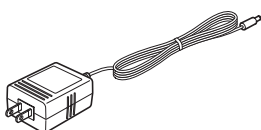
**BT-UC6R(RS-232C通信ユニット)のパッケージ内容**

BT-UC6R本体…1

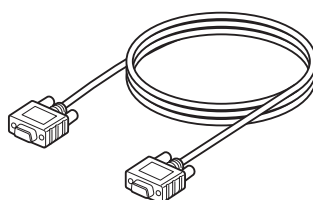


取扱説明書…1

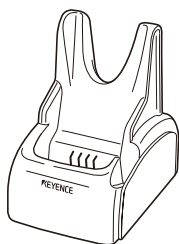
BT-UC6R用ACアダプタ…1



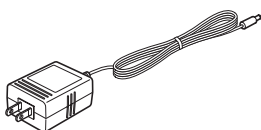
RS-232Cケーブル(約1.5m)…1

**BT-UC6L(LAN通信ユニット)のパッケージ内容**

BT-UC6L本体…1



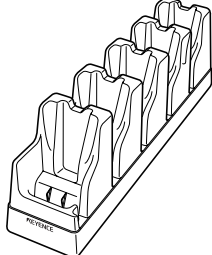
BT-UC6L用ACアダプタ…1



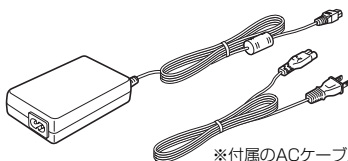
取扱説明書…1

**BT-UC65(5連充電ユニット)のパッケージ内容**

BT-UC65本体…1



BT-UC65用ACアダプタ…1



取扱説明書…1

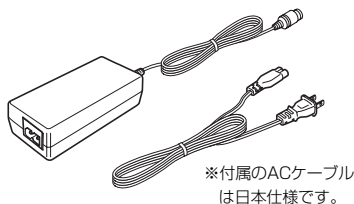
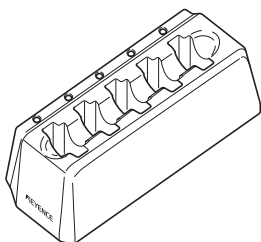
※付属のACケーブル  
は日本仕様です。

## BT-CG35(充電電池用5連充電ユニット)のパッケージ内容

BT-CG35本体…1

BT-CG35用ACアダプタ…1

取扱説明書…1

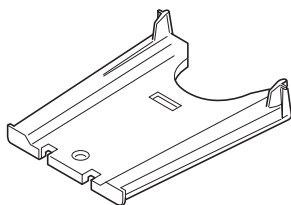


## BT-A15(標準充電電池パック用スペーサ)のパッケージ内容

BT-B60をBT-CG35で充電するとき、充電スロットに装着するスペーサです。

BT-A15…5

取扱説明書…1

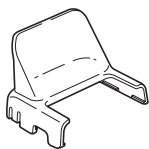


## 接触読みアタッチメント(OP-87386)のパッケージ内容

BT-600シリーズをバーコードにタッチして読み取るために、本体背面のスキャナ部に取り付けるオプションです。

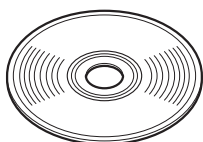
接触読みアタッチメント…1

取扱説明書…1



## BT-H10W(BT-Navigator)のパッケージ内容

CD-ROM…1



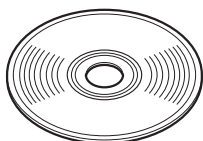
### ■CD-ROMの収録内容

- ランチャー
- BTアプリケーションビルダ
- BTシミュレータ
- サーバライブラリ
- ベースアプリケーション
- データ転送ソフト
- 通信ライブラリ
- 誤品照合設定ツール
- データ通信ソフトサービス
- 負荷テストシミュレータ
- NIResolverサービス
- BTアプリケーションデバッグ

📖 「ソフトウェア構成」(2-6ページ)

## BT-HD10/HD10L(C言語アプリケーション開発キット)のパッケージ内容

CD-ROM…1



### ■CD-ROMの収録内容

- C言語統合開発環境
- プロジェクトビルダ
- Visual C++2008/2005/.NET 2003用アドインソフト
- BTシミュレータ
- 端末ライブラリ
- 通信ライブラリ
- データ転送ソフト
- 無線システム管理ソフト
- データ転送ソフトサービス
- 負荷テストシミュレータ
- NIResolverサービス
- BTアプリケーションデバッグ

BT-HD10Lにはコンパイラのライセンスが付属していません。

📖 「ソフトウェア構成」(2-6ページ)

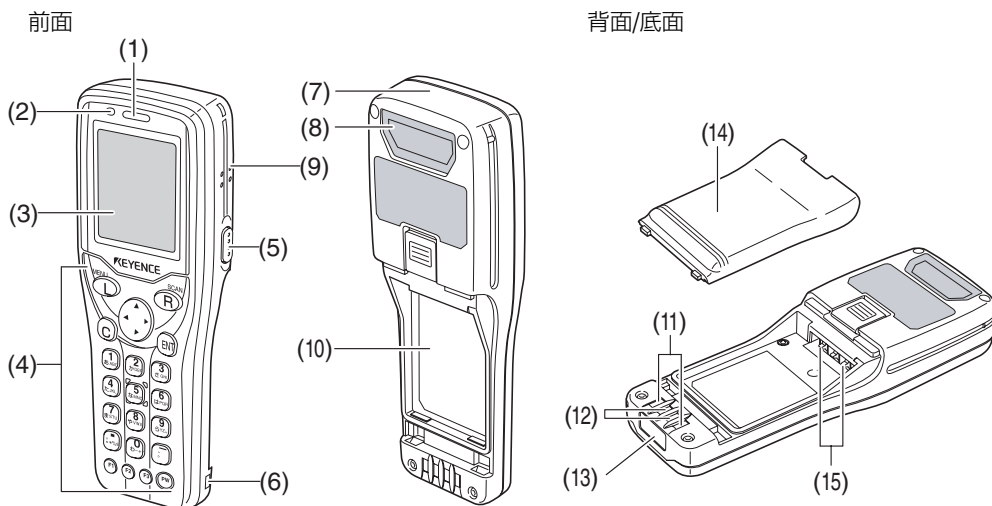
#### ！ ポイント

BT-H10W/HD10/HD10Lは、BTシリーズ共通の開発ツールになります。  
機種ごとに使用できる機能、できない機能があります。

# 1-2 各部の名称

BT-600シリーズの各部の名称と機能について説明します。

## BT-600/600B

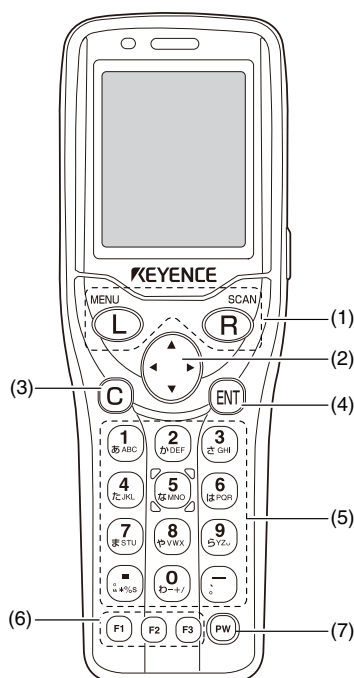


- (1) 動作確認LED ..... バーコードを読み取ったときに緑点灯、読めなかったときは赤点灯など、点灯状態を自由にプログラミングできます。
- (2) 充電確認LED ..... BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65に装着時に電池パックの充電状態を表示します。
- (3) 液晶表示部 ..... メニューや作業者への指示表示、読み取ったバーコードデータ、入力した文字などを表示します。表示内容は自由にプログラミングできます。
- (4) キー操作部 ..... 電源スイッチ、テンキー、ファンクションキーなどがあり、各種入力をおこないます。入力操作時にバックライトが点灯するように設定できます。
- (5) トリガキー ..... バーコードを読み取るときに押します。
- (6) ストラップ取付穴 ..... ストラップを取り付けます。
- (7) Bluetooth ..... Bluetooth搭載携帯プリンタやBluetooth搭載携帯電話と通信します。BT-600Bのみが対応しています。
- (8) スキャナ部 ..... バーコードを読み取ります。
- (9) ブザー穴 ..... ブザー音を出します。
- (10) 電池取付部 ..... 主電池パックを取り付けます。
- (11) 充電端子 ..... BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65 で充電電池パックを充電するための端子です。
- (12) 通信端子 ..... 通信ユニット(BT-UC6U/UC6R/UC6L)と通信するための端子です。
- (13) 赤外線通信ポート ..... IrDA搭載プリンタ、2台のBT-600シリーズ間で通信するための通信ポートです。
- (14) 電池取付カバー ..... 主電池取付部のカバーです。BT-B60、BT-B62、BT-B65 にそれぞれ専用のものが付属しています。BT-600シリーズ本体に取付カバーは付属していません。
- (15) 電池端子 ..... BT-B60/62/65との電池端子です。

## キー操作部とステータス表示

### ■キー操作部

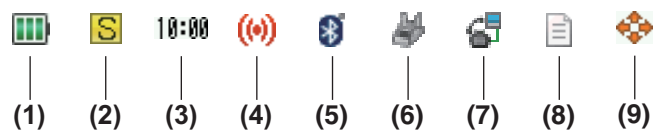
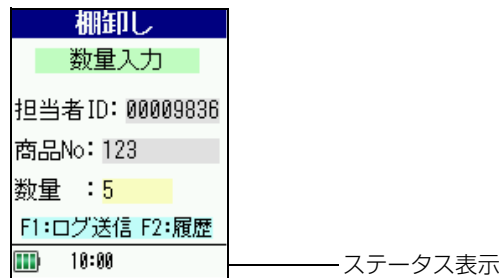
キー操作部はBT-600/600Bで共通です。



- (1) Lキー/Rキー……………プログラミングにより、自由に機能を割り付けることができます。  
通常は、トリガキーなどを割り付けてください。
- (2) 十字キー……………文字入力、数値入力時のカーソルの移動、メニューの選択などに使用します。
- (3) Cキー……………入力したデータを取り消します。
- (4) ENTキー……………入力データや操作を確定します。
- (5) テンキー……………数字、文字を入力します。
- (6) ファンクションキー……………プログラミングにより、自由に機能を割り付けできます。文字入力する場合のモード切り替えにも使用します。  
📖「操作一覧」(3-10ページ)
- (7) PWキー……………電源をON/OFFするスイッチです。  
7秒程度押し続けると、BT-600シリーズ本体がハードリセットされます。

■ステータス表示

BT-600シリーズの液晶画面に表示されるステータス表示について説明します。



- (1) バッテリー表示 ..... バッテリーの残量を表示します。  
残量によって、以下のように変化します。

表示	説明		
	BT-B60/ BT-B62 使用時	BT-B65使用時	
		アルカリ 乾電池使用時	ニッケル水素 充電電池使用時
	約60%以上	約60%以上	約50%以上
	約60～30%	約60～30%	約50～20%
	約30～10%	約30～20%	約20～10%
	約10%以下	約10%以下	約10%以下
	充電中	—	—

- (2) シフト/変換モード表示 ..... 文字入力時、シフト/変換モードを表示します。

表示	説明
	シフトキー有効
	日本語入力モード
	半角英数字入力モード
	全角英数字入力モード

- (3) 時計表示 ..... 時計を表示します。



- (4) 通信状態 ..... 通信状態によって、以下のように変化します。

状態	表示
待ち受け中	
通信中	

- (5) Bluetooth接続状態 ..... Bluetoothによる接続状態を表示します。  
BT-600Bで表示されます。  
通信状態によって、以下のように変化します。

表示	説明
点滅	接続認証中
点灯	接続確立

- (6) LAN通信ユニット接続状態 ..... LAN通信ユニット(MODE1)との接続状態を表示します。

表示	説明
点滅	接続認証中
点灯	接続確立

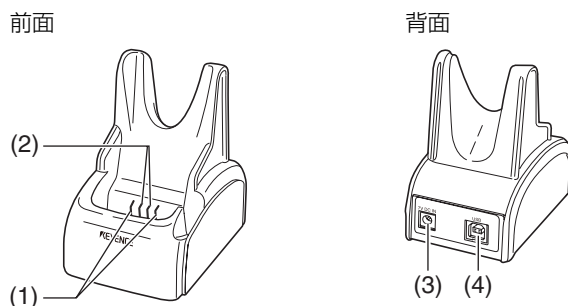
- (7) モデム接続状態 ..... BT専用アナログモデムBT-MD1との接続状態を表示します。

表示	説明
電話機点滅※	モデムコマンド送信中
受話器上げ下げ	ダイヤル中
右部点滅	PPP接続認証中
点灯	接続確立

※ この状態が続く場合は、ケーブルが正しく接続されていないか、BT-MD1の電源が入っていない可能性があります。

- (8) ファイルアクセス表示 ..... ファイルアクセス中に点滅します。
- (9) スクロールガイド表示 ..... 十字キーでスクロール可能な方向を表示します。

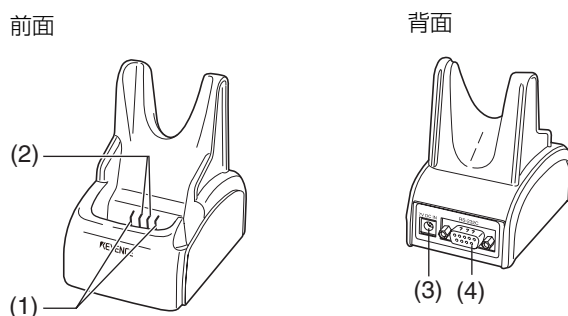
## BT-UC6U(USB通信ユニット)



- (1) 充電端子 …………… BT-600シリーズを充電するための端子です。
- (2) 通信端子 …………… BT-600シリーズと通信するための端子です。
- (3) ACアダプタ接続端子 …… ACアダプタの接続端子です。
- (4) USBポート …………… パソコンと接続するためのUSBコネクタです。接続するときは付属のUSBケーブルを使用します。  
1台のパソコンに複数のBT-UC6Uを接続する場合には、USB2.0対応のHUBおよびケーブルを推奨します。

※ ACアダプタを接続しなくても、USBポートを使った通信は可能です。ただし、この場合、BT-600シリーズの充電・ウェイクアップ機能は使用できません。

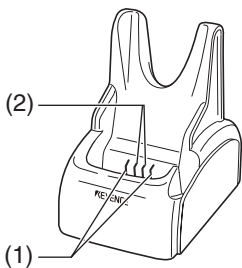
## BT-UC6R(RS-232C通信ユニット)



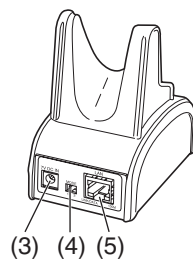
- (1) 充電端子 …………… BT-600シリーズを充電するための端子です。
- (2) 通信端子 …………… BT-600シリーズと通信するための端子です。
- (3) ACアダプタ接続端子 …… ACアダプタの接続端子です。
- (4) RS-232Cポート …………… パソコンや専用モデムと接続するためのRS-232C コネクタです。  
接続するときは付属のRS-232Cケーブルを使用します。

BT-UC6L(LAN通信ユニット)

前面



背面



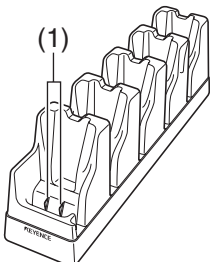
- (1) 充電端子 …………… BT-600シリーズを充電するための端子です。
- (2) 通信端子 …………… BT-600シリーズと通信するための端子です。
- (3) ACアダプタ接続端子 …… ACアダプタの接続端子です。
- (4) 動作モード切替スイッチ 動作モード(MODE1/MODE2)を切り替えるスイッチです。通常はMODE1でご使用ください。

モード	説明
MODE1	BT-600シリーズとBT-UC6L間がソケット通信をおこなうモードです。このモードでは、通信ユニット経由でのFTP通信が可能です。通信速度は878900 bpsです。通常はこちらを使用します。
MODE2	BT-600シリーズとBT-UC6L間がシリアル通信をおこなうモードです。従来機種のBT-UC9L/UC5Lと通信方法に互換性があります。通信速度は最大115200 bpsです。通常は使用しません。

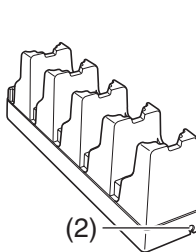
- (5) LANポート …………… パソコンと接続するためのLAN コネクタです。市販のUTPケーブル(カテゴリ5以上)で接続します。

BT-UC65(5連充電ユニット)

側面

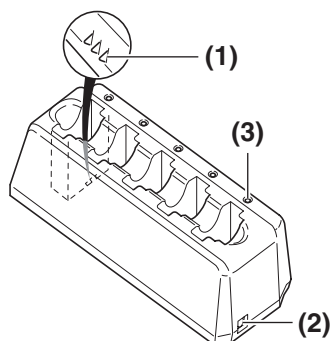


裏面



- (1) 充電端子 …………… BT-600シリーズを充電するための端子です。
- (2) ACアダプタ接続端子 …… ACアダプタの接続端子です。

## BT-CG35(充電電池用5連充電ユニット)



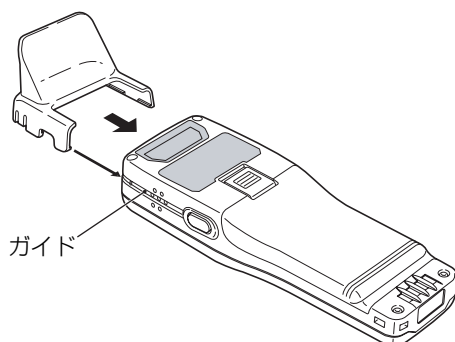
- (1) 充電端子 …………… BT-B60/B62 を充電するための端子です。標準充電電池パック (BT-B60) を充電するときには、標準充電電池用スペーサBT-A15をBT-CG35に装着してから標準充電電池パックをセットしてください。
- (2) ACアダプタ接続端子…… ACアダプタの接続端子です。
- (3) チャージLED …………… 充電中は赤色に、充電完了時は緑色に点灯します。

# 1-3 接触読みアタッチメントの取り付け方法

接触読みアタッチメント(OP-87386)は、BT-600シリーズをバーコードにタッチして読み取るために本体背面のスキャナ部に取り付けるオプションです。

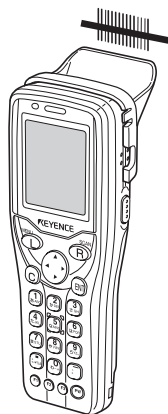
## ■取り付け方法

図のように、本体側面のガイドにあわせ、背面最上からスライドさせて、カチッと音がするまでしっかりと差し込んで取り付けます。



## ■使用方法

バーコードが接触読みアタッチメントの読み取り範囲内に収まるようあて、トリガーボタンを押します。



### ▶ 重要

接触読みアタッチメントの脱着時は、スキャナ部を触らないようにお願いします。  
汚れ、傷が読み取り機能を低下させる場合があります。

# 1-4 専用電池の取り付けと充電

1

ご使用になる前に

BT-600シリーズは、主電池として充電電池パック(BT-B60/B62)または乾電池パック(BT-B65)、副電池として本体内蔵バックアップ用充電電池を使用しています。これらの電池は、BT-600シリーズの動作、時計、およびメモリのバックアップに使用されています。

BT-600/BT600B 本体には主電池は付属していませんので、別途お買い求めの上、使用前に充電電池パックを正しく装着し、必ず充電してください。市販のニッケル水素充電電池は、BT-600シリーズでは充電できません。

## 電池について

### ●主電池(BT-B60/B62/B65)

BT-600シリーズの動作、時計およびメモリのバックアップのための電源として使用されます。充電電池パック(BT-B60/B62)は、BT-UC65(5連充電ユニット)、BT-CG35(充電電池用5連充電ユニット)、BT-UC6U(USB通信ユニット)、BT-UC6R(RS-232C通信ユニット)、BT-UC6L(LAN通信ユニット)を使って充電します。

乾電池パック(BT-B65)は、市販のアルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池(単4×3個)を使用します。

#### ▶ 重要

- 各種電池は当社推奨品をご使用ください。
- 乾電池パック(BT-B65)は、BT-600/600B 用です。乾電池パックを使用する場合、使用温度範囲は0～50℃となります。





### ●バックアップ用副電池

BT-600シリーズに内蔵されているリチウム2次電池です。充電電池パックの交換時に時計とメモリのバックアップに使用されます。この電池は交換できません。主電池をBT-600シリーズに装着すると、主電池から充電されます。

### ●主電池の残量について

主電池パックの残量は次の2とおりの方法で確認できます。

- ステータス表示  
ステータス表示させることで電池残量を確認できます。
- バッテリー状態取得命令  
バッテリー状態取得命令を使用して端末アプリケーションを作成することで、電池残量を確認できます。

表示	説明		
	BT-B60/BT-B62 使用時	BT-B65使用時	
		アルカリ乾電池使用時	ニッケル水素充電電池使用時
	約60%以上	約60%以上	約50%以上
	約60～30%	約60～30%	約50～20%
	約30～10%	約30～20%	約20～10%
	約10%以下	約10%以下	約10%以下
	充電中	—	—

#### ！ ポイント

電池残量表示は使用状況、使用期間などにより、変動する場合があります。あくまでも目安と考えてください。

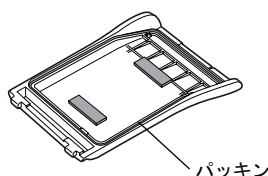
特に乾電池パックをご使用の際は、電池残量が残っていても、バーコード読み取り時に電源が切れることがあります。このような場合は、新しい電池に交換してください。

## ▶ 重要

- 電池残量が少なくなった充電電池パックはできるだけ早く充電してください。
- 主電池は使用しない状態でも自己放電により消耗し続けています。充電電池パックは定期的に充電してください。
- 満充電しても著しく使用時間が短くなった充電電池パックは寿命と考えられます。新しい充電電池パックをご用意ください。
- 充電電池パックを交換するときは、すでに充電された充電電池パックと取り替えてください。また交換する前に必ずPWキーを押し、電源をOFFにしてください。
- 充電電池パックは、必ずBT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65、BT-CG35のいずれかを使用して充電してください。
- 電池残量の少なくなった乾電池パックは、3本すべてを新しい単4アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池に取り替えてください。乾電池パックに単4アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池をセットするときには、+、-を間違えないようにしてください。また、電池の液漏れ、変形、変色などの異常があったとき、その電池を使用しないでください。
- 主電池を外した状態でBT-600シリーズを放置すると、バックアップ用の副電池が減少し、BT-600シリーズ内のデータが消えることがあります。
- バックアップ用副電池は長時間データを保持するためのものではなく、主電池交換時の一時的なデータ保持を目的としています。長時間のデータ保持が必要な場合は、必ず主電池を装着してください。
- バックアップ用副電池は主電池から充電されます。副電池が完全放電した状態から充電が完了するまでには約60時間(常温)かかります。副電池の充電をおこなっている間は、主電池による連続使用時間が短くなります。
- バックアップ用の副電池のサイクル寿命は約50回です。完全放電／充電を繰り返すと、充電能力が劣化しますので、BT-600シリーズを使用しない場合でも主電池は取り外さないでください。
- 各種電池は当社推奨品をご使用ください。

## パッキンの点検

BT-600シリーズ用電池取付カバーには、保護構造IP54を保たせるため、パッキンが取り付けられています。



主電池取り付け時は、次の点検項目についてパッキンを点検してください。

### ●点検項目

- パッキンがはめ込まれている溝から外れていないか確認してください。外れている場合は、取り付けてください。
- パッキンの取付部に砂、髪の毛などのごみが付着している場合は、必ず、乾いた清潔な布で拭き取ってください。

#### 注 記

BT-600シリーズを落下させたり、過度な衝撃を加えると、防水を保てなくなる場合があります。取り扱いには十分注意してください。

## 充電電池パックの取り付けと充電

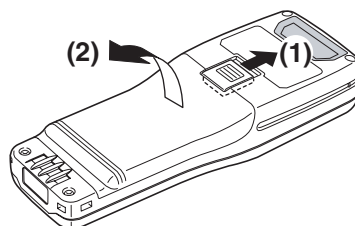
### ▶ 重要

BT-600シリーズに使用できる電池パックは、標準充電電池パック(BT-B60)、大容量充電電池パック(BT-B62)、乾電池パック(BT-B65)の3種類です。電池パック取付部カバーは、それぞれの電池パックに付属していますので、専用のものを使用してください。

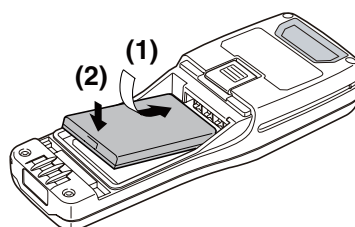
- ・ 取り付ける前に、電池パック取付カバーの本体側にパッキンが正しく装着されているかどうか確認してください。(□ 1-15ページ)
- ・ BT-B60/B62/B65以外の電池を使用しないでください。
- ・ BT-B60/B62を初めてお使いになる場合は、必ず充電してください。

### ■ 充電電池パックを取り付ける

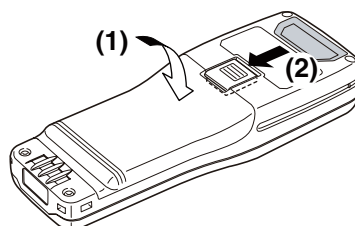
- 1 固定しているロックボタンを矢印方向にスライドさせ(1)、充電電池パック取付部カバーを取り外します(2)。



- 2 新しい充電電池パック(BT-B60/B62)を、電池の注意書きが見えるようにして図のように端子極性を合わせます。端子側からBT-600シリーズに合わせ(1)、指で軽く押し込みます(2)。



- 3 充電電池パック取付部カバーのツメを端子側から合わせて閉め(1)、ロックボタンを矢印方向にスライドさせ固定します(2)。



### ⚠ ポイント

ロックボタンが完全に固定されたことを確認してください。  
ロックボタンが完全に固定されていないと、充電電池パックが外れるおそれがあります。

### 注 記

充電電池パックの取り付け・交換の際は、内部にゴミが入らないように注意してください。接触が悪くなり、充電機能の低下や瞬断の原因になります。



## ■ 充電電池パックを充電する

注 記	0 ～ + 40 ℃ の温度環境で充電してください。これ以外の環境で充電すると、充電効率や性能の低下、液漏れの原因となることがあります。
-----	--

充電には、BT-UC6U/UC6R/UC6L、BT-UC65、BT-CG35を使用します。

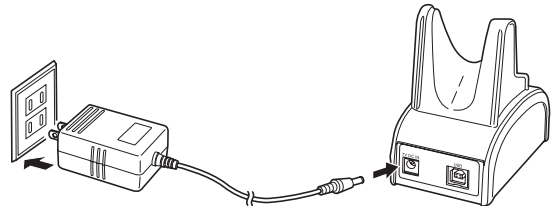
- 1台だけ充電するときは、BT-UC6U/UC6R/UC6Lを使用します。
- 1～5台同時に充電するときはBT-UC65を使用します。
- BT-B62(大容量充電電池パック)単体を1～5個同時に充電するときは、BT-CG35のみを使用します。  
BT-B60(標準充電電池パック)単体を1～5個同時に充電するときは、BT-CG35にBT-A15を装着して使用します。

## ● BT-UC6U/UC6R/UC6Lを使った充電方法

ポイント	残量ゼロの状態から満充電までの充電時間はBT-B60の場合、約3時間、BT-B62の場合、約5.5時間です(常温時)。
------	---

注 記	BT-UC6U/UC6R/UC6L を BT-600 シリーズ以外の機器には絶対に使用しないでください。BT-UC6U/UC6R/UC6L や機器を損傷することがあります。
-----	--

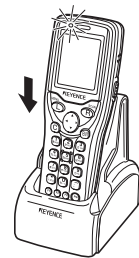
### 1 BT-UC6U/UC6R/UC6LにACアダプタを セットしコンセントに接続します。



注 記	BT-UC6U/UC6R/UC6L 専用の AC アダプタを使用してください。異なる AC アダプタを使用すると、故障の原因になり、性能を十分に発揮できないことがあります。
-----	--

### 2 BT-UC6U/UC6R/UC6LにBT-600シリーズを挿入します。

充電確認LEDが赤色に点灯し、充電中であることを表示します。  
充電が完了すると緑色に点灯します。



ポイント	充電確認LEDが赤色と緑色に点滅する場合は、以下の原因が考えられますので、それぞれ対処してください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 充電電池パックが取り付けられていない → 充電電池パックを取り付けてください。</li> <li>• 充電電池パックの異常 → 正常な充電電池パックと交換してください。</li> <li>• 周囲の温度が高すぎる、または低すぎる → 0～+40℃の環境で充電してください。</li> </ul>
------	---

注 記	BT-500 で BT-UC6U/UC6R/UC6L は使用しないでください。充電できますが、通信端子が傷つくおそれがあります。通信はできません。
-----	---

## ●BT-UC65を使った充電方法

BT-600シリーズを同時に最大5台まで充電したいときに使用します。

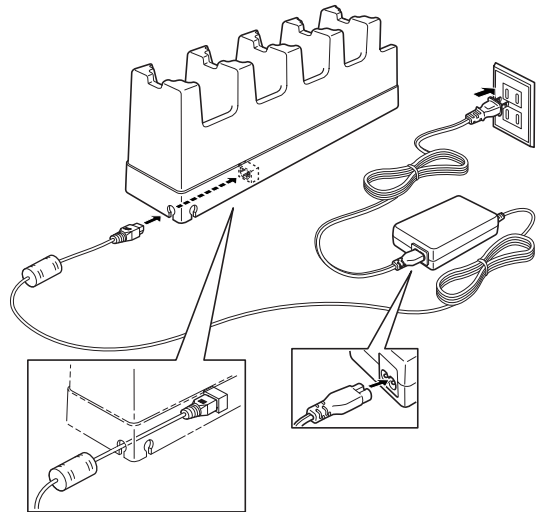
### ！ポイント

残量ゼロの状態から満充電までの充電時間はBT-B60の場合、約3時間(常温時)、BT-B62の場合、約5.5時間です(常温時)。

### 注 記

BT-UC65 は、BT-600 シリーズ以外の機器と組み合わせて使用しないでください。BT-UC65 や機器を損傷することがあります。

## 1 BT-UC65にACアダプタをセットしてコンセントに接続します。



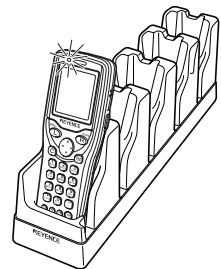
### 注 記

BT-UC65 専用の AC アダプタを使用してください。異なる AC アダプタを使用すると、故障の原因になり、性能を十分に発揮できないことがあります。

## 2 BT-600シリーズをBT-UC65に挿入します。

充電確認LEDが赤色に点灯し、充電中であることを表示します。

充電が完了すると緑色に点灯します。



### ！ポイント

充電確認LEDが赤色と緑色に点滅する場合は、以下の原因が考えられますので、それぞれ対処してください。

- 充電電池パックが取り付けられていない → 充電電池パックを取り付けてください。
- 充電電池パックの異常 → 正常な充電電池パックと交換してください。
- 周囲の温度が高すぎる、または低すぎる → 0～+40℃の環境で充電してください。

## ●BT-CG35を使った充電方法

充電電池パック(BT-B60/B62)単体を同時に最大5個まで充電したいときに使用します。

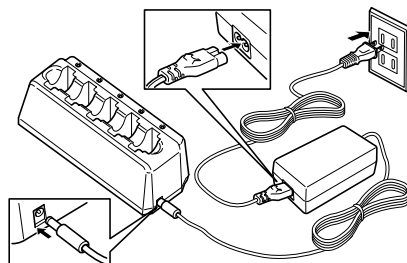
### ポイント

残量ゼロの状態から満充電までの充電時間はBT-B60の場合、約2.5時間(常温時)、BT-B62の場合、約4.5時間です(常温時)。

### 注 記

BT-CG35 で BT-B60/B62 以外の充電電池などを充電しないでください。  
BT-CG35 や充電電池などを損傷することがあります。

## 1 BT-CG35にACアダプタをセットしてコンセントに接続します。

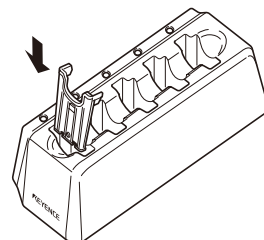


### 注 記

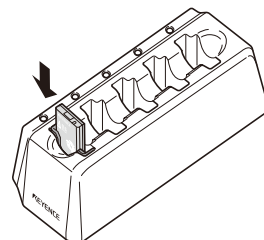
BT-CG35 専用の AC アダプタを使用してください。異なる AC アダプタを使用すると、故障の原因になり、性能を十分発揮できないことがあります。

## BT-B60を充電する場合

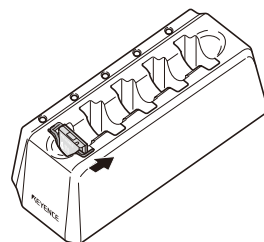
- (1) BT-CG35 の充電スロットの手前側に、別売の標準充電電池用スペーサ(BT-A15)の表側を奥に向けて取り付けます。



- (2) BT-B60の警告ラベル面を手前にし、充電端子部を下にします。



- (3) BT-B60をBT-CG35の充電スロットの底面まで押し込み、そのまま奥側に倒します。



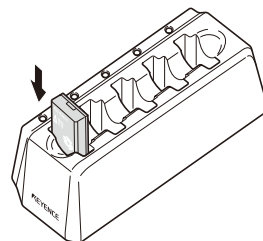
- (4) チャージ LED が赤色に点灯し、充電中であることを表示します。充電が完了すると緑色に点灯します。

！ ポイント

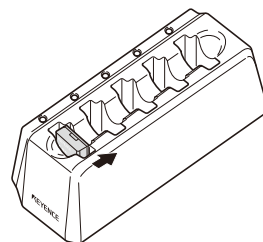
BT-A15を使用してBT-B60を充電するときは、必ずチャージLED が赤色に点灯していることを確認してください。点灯しないときは電池を逆にセットしている場合がありますので、電池の向きを確認してください。

### BT-B62を充電する場合

- (1) BT-B62の警告ラベル面を手前にし、充電端子部を下にします。



- (2) BT-B62 を CG35 の充電スロットの底面まで押し込み、そのまま奥側に倒します。



- (3) チャージLEDが赤色に点灯し、充電中であることを表示します。充電が完了すると緑色に点灯します。

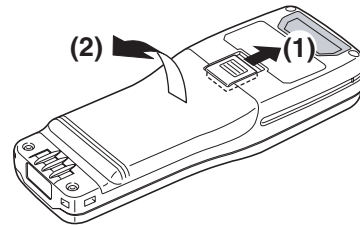
！ ポイント

チャージLEDが赤色に点滅する場合は、充電電池パックの異常が考えられます。正常な充電電池パックと交換してください。

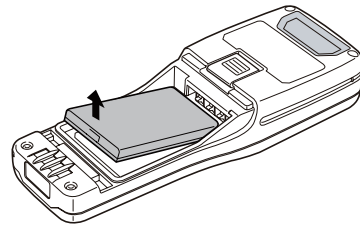
## ■ 充電電池パックを交換する

充電電池パックは、次の手順で交換してください。

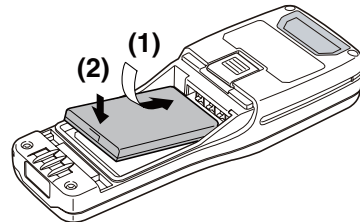
- 1 BT-600シリーズの(PW)キーを押して、電源をOFFにします。
- 2 固定しているロックボタンを矢印方向にスライドさせ(1)、電池取付カバーを取り外します(2)。



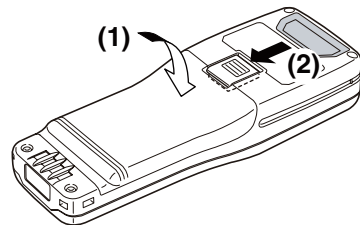
- 3 充電電池パック(BT-B60/B62)を持ち上げるようにして取り外します。



- 4 新しい充電電池パック(BT-B60/B62)を、電池の注意書きが見えるようにして端子極性を合わせます。図のように端子側から合わせ(1)、指で軽く押し込みます(2)。



- 5 電池取付カバーのツメを端子側から合わせて閉め(1)、ロックボタンを矢印方向にスライドさせ固定します(2)。



### ！ ポイント

ロックボタンが完全に固定されたことを確認してください。  
ロックボタンが完全に固定されていないと、充電電池パックが外れるおそれがあります。

### ▶ 重要

- 取り付ける前に電池取付カバーのパッキンを確認してください。  
□「パッキンの点検」(1-15ページ)
- 充電電池パックを交換するときは、必ずBT-600シリーズの電源をOFFにしてください。
- 指定以外の電池は使用しないでください。

## 乾電池パックの取り付けと交換方法

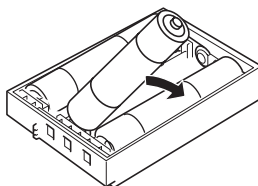
市販の単四アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池を3個用いて、BT-600シリーズを使用する場合は、乾電池パック(BT-B65)を取り付けます。取り付け方法と交換方法を説明します。

### ▶ 重要

- 乾電池パック(BT-B65)は、BT-600/600B用です。乾電池パックを使用する場合、使用温度範囲は0～+50℃となります。
- 乾電池パックを使用する場合、電源OFF時に電池を消費しないバックアップモード「省電」の使用をお勧めします。(□「省電力機能について」(1-24ページ))
- BTシリーズの充電器を使用して、乾電池パック(BT-B65)の充電はできません。
- アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池を使用する場合、システムメニューで乾電池タイプの設定が必要です。正しく設定されていない場合、正常に動作しません。設定については、□『システムメニュー操作マニュアル』をご参照ください。

## ■乾電池パックを取り付ける

- 1 乾電池パックに、単四アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池を3個入れます。



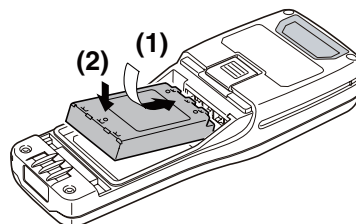
### 注 記

アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池の極性を間違っていないでください。  
アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池の液漏れや破裂の原因になることがあります。

### ▶ 重要

- 取り付ける前に電池取付カバーのパッキンを確認してください。(□ 1-15ページ)
- 単4アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池以外は使用しないでください。十分な性能を発揮できない場合があります。

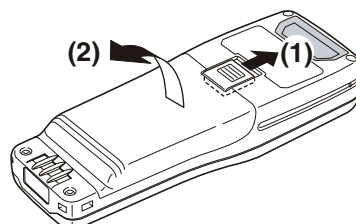
- 2 乾電池パックを電池の注意書きが見えるようにして端子極性を合わせます。図のように端子側からBT-600シリーズに合わせ(1)、指で軽く押し込みます(2)。



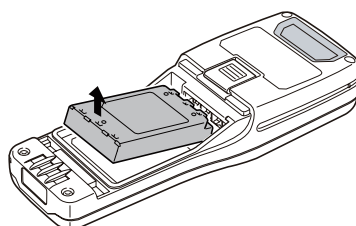
## ■乾電池を交換する

**1** BT-600シリーズの(PW)キーを押して、電源をOFFにします。

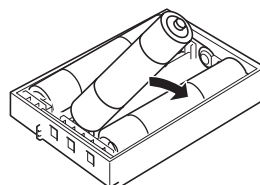
**2** 固定しているロックボタンを矢印方向にスライドさせ(1)、電池取付カバーを取り外します(2)。



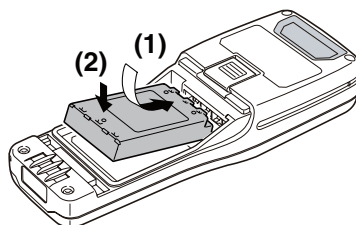
**3** 乾電池パック(BT-B65)を持ち上げるようにして取り外します。



**4** 新しい電池を入れます。



**5** 乾電池パックを、電池の注意書きが見えるようにして端子極性を合わせます。図のように端子側からBT-600シリーズに合わせ(1)、指で軽く押し込みます(2)。



### ▶ 重要

- 取り付ける前に取付カバーのパッキンを確認してください。(☞ 1-15ページ)
- 乾電池を交換するときは、必ずBT-600シリーズの電源をOFFにしてください。
- 当社推奨の単四アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池以外は使用しないでください。十分な性能を発揮できない場合があります。
- ニッケル水素充電電池は、市販の充電器で充電してください。BT-600 シリーズでは充電できません。

### 参考

- 乾電池パック付きのBT-600シリーズとパソコンの通信には、BT-UC6U/UC6R/UC6Lなどの各種通信ユニットが使用できます。
- BT-600 シリーズ用各種通信ユニットにセットしても乾電池に充電されることはありません。

## 電源をONする

- 1 (PW)キーを押すと、BT-600シリーズが起動します。  
アプリケーションが起動します。

### ▶ 重要

初めて BT-600 シリーズの電源を入れたときや、本体内蔵のバックアップ用副電池の容量がなくなったときは、本体内のRAM(ドライブ2)を初期化するメッセージが表示されます。このとき、日付と時刻はクリアされている場合がありますので、システムメニューで日付 / 時刻設定をしてください。または、サーバPC との通信時におこなわれる自動日付 / 時刻合わせを利用してください。



## 省電力機能について

BT-600シリーズには、以下の省電力機能があります。

### バックアップモード「省電」

BT-600シリーズは、RAM(ドライブ2)のデータを保持するために電源OFFの状態でも電池を消費しています。

バックアップモード「省電」を使用すると、電源OFF時にRAM内データを保持しないため、電池の消費が少なくなり、電池が長持ちします(日付と時刻は保持されます)。

乾電池パックBT-B65を使用している場合に効果のある省電力モードです。

システムメニューで設定します。

📖『システムメニュー操作マニュアル』

### ▶ 重要

バックアップモード「省電」では、電源OFF時にRAM(ドライブ2)データ保持をしないため、電源をONにしたときに必ずRAMが初期化されます。このとき、メッセージは表示されず、強制的に初期化されます。

重要なデータはRAM(ドライブ2)に保存しないでください。



# 1-5 通信ユニットの設定

BT-600シリーズでは、パソコンとのデータのやりとりに通信ユニットを使用します。通信ユニットの設定方法について説明します。

**ポイント** BT-UC6Lを使用するときには、背面の動作モード切り替えスイッチの設定を確認してください。

□「1-2 各部の名称」(1-6ページ)

ユニット名	接続方法	参照ページ
BT-UC6R	RS-232Cケーブルを使用して、パソコンと接続します。パソコンと接続するだけで使用できます。	1-10ページ
BT-UC6U	USBケーブルを使用して、パソコンと接続します。初めてパソコンと接続するときにUSBドライバのインストールが必要です。	1-25ページ
BT-UC6L	LANケーブルを使用して、パソコンやネットワークに接続します。LANケーブルを接続する前に、BT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイIPアドレス)が必要です。	1-31ページ

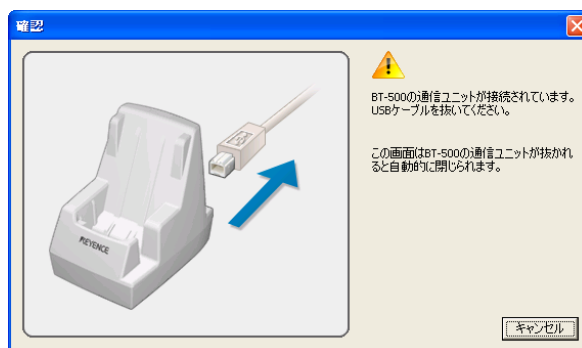
## USBドライバのインストール(BT-UC6U)

BT-UC6Uを初めてパソコンのUSBポートに接続するときには、USBドライバのインストールが必要です。2台目以降の接続では、自動的にUSBドライバが認識されるため、USBドライバを再度インストールする必要はありません。

ここでは、USBドライバのインストール方法について説明します。

### 重要

- BT-UC6Uのドライバは、WindowsXP(x86)、WindowsVista(x86)、Windows7(x86/x64)、Windows Server2008R2のみサポートします。
- USBドライバのインストール中や通信中は、BT-UC6UのUSBケーブルの抜き差しはしないでください。
- BT-500シリーズのUSB通信ユニットBT-UC5Uが接続されているPCにインストールする場合、インストール開始前に、BT-UC5UのUSBケーブルを抜いてください。また、インストール中もBT-UC5Uは接続しないでください。  
BT-UC5Uを接続したまま、インストールを開始した場合、以下のダイアログが表示されます。  
BT-UC5Uは、BT-UC6Uのインストール完了後、接続してください。
- 上記のBT-UC5Uの内容は、BTUC9Uも同様です



## USBドライバのインストール方法

- 1 パソコンを起動し、**Administrator**、コンピュータの管理者などのシステム設定を変更できる権限を持つユーザでログオンします。
- 2 **BT-H10W/HD10**の**CD-ROM**もしくはインストールフォルダから、**USBドライバ**のインストールに必要なファイルを取得して、インストールする**PC**の任意のフォルダに保存します。  
USBドライバのインストールに必要なファイルが保存されているフォルダ

CD-ROM(BT-H10W/HD10):

BT USB Driver¥BT-600

インストールフォルダ:

- BT-H10W  
C:¥Program Files¥KEYENCE¥BT¥BT-H10W¥BT USB Driver¥BT-600
- BT-HD10  
C:¥Program Files¥KEYENCE¥BT¥BT-HD10¥BT USB Driver¥BT-600

- 3 手順2で保存したフォルダ内の**UC6UDriverInst.exe**をダブルクリックして、インストールを開始します。

実行後、以下のダイアログが表示されます。



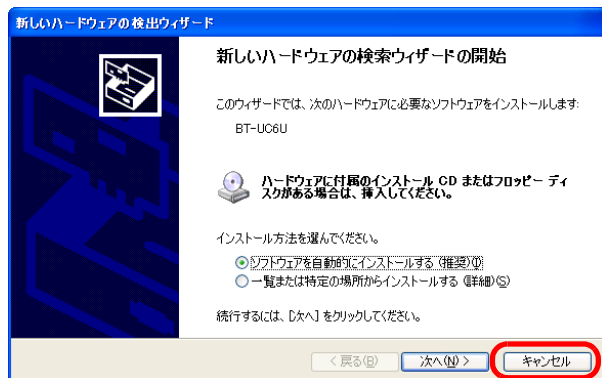
- 4 **BT-UC6U**の**USBポート**と、**パソコンのUSBポート**を接続します。  
インストール中は、**BT-UC6U**をパソコンに接続している必要があります。



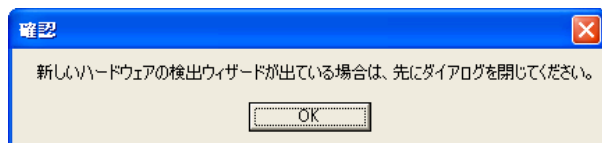
## ! ポイント

UC6UDriverInst.exeを実行する前に、BT-UC6UのUSBポートと、パソコンのUSBポートを接続した場合、[新しいハードウェアの検出ウィザード] ウィンドウが表示されます。

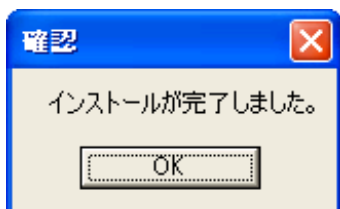
表示された場合、[キャンセル]を選択してウィザードを閉じてください。



ウィザードを閉じていない場合、以下のメッセージが表示されます。



## 5 正常に完了すると以下のダイアログが表示されます。



## ▶ 重要

BT-600シリーズのBT-UC6UドライバがインストールされたPCに、BT-500シリーズのBT-UC5Uドライバをインストールする場合、BT-UC5Uのドライバは、Windows7に対応したバージョンのドライバを必ずインストールしてください。Windows7に対応していないバージョンのドライバをインストールした場合、BT-UC6Uのドライバが使用できなくなります。BT-UC9Uのドライバも同様です。USBドライバは、BTシリーズサポートページで入手できます。

BTシリーズサポートページ

<http://www.keyence.co.jp/barcode/btus>

## USBドライバのアンインストール方法

コントロールパネルからUSBドライバのアンインストールをおこないます。

- 1 Windowsを起動して、Administrator、コンピュータの管理者などのシステム設定を変更できる権限を持つユーザでログオンします。
- 2 「コントロールパネル」から「プログラムの追加と削除(Windows XP/2003の場合)」,または「プログラムと機能(Windows 7/Vista/2008の場合)」を開きます。  
プログラムの一覧から以下のプログラムを選択して、①→②の順でアンインストールします。  
① 「Windows ドライバパッケージ-KEYENCE Corporation VCOM USB-Driver [BT-UC6U]」  
② 「Windows ドライバパッケージ-KEYENCE Corporation BUS USB-Driver [BT-UC6U]」

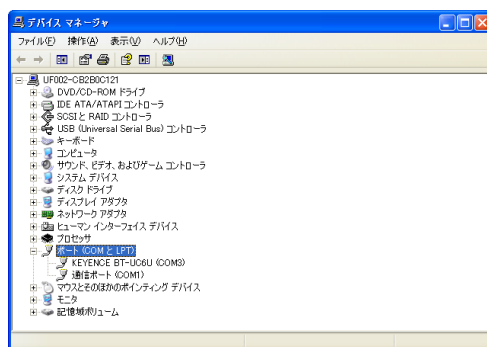


## COMポート番号を変更する

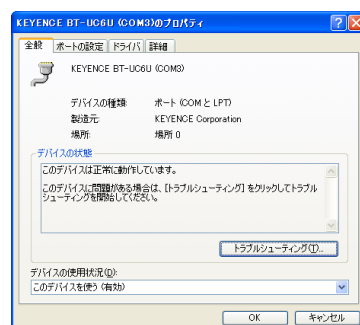
USBドライバをインストールすると、COMポート番号が自動的に割り付けられます。自動割付で正常に動作しない場合には、次の手順でCOMポート番号を変更してください。

ここでは、Windows XPの場合の変更方法について説明します。Windows Vista、Windows7の場合には、デバイスマネージャから同様の手順で変更してください。

- 1 デスクトップ上の「マイコンピュータ」アイコンを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択します。  
[システムのプロパティ]ウィンドウが表示されます。
- 2 [ハードウェア]タブをクリックして、[デバイス マネージャ(D)]ボタンをクリックします。  
[デバイス マネージャ]ウィンドウが表示されます。
- 3 [ポート(COMとLPT)]をクリックします。  
COMポートを使用するデバイスと、割り付けられたポート番号が表示されます。



- 4 [KEYENCE BT-UC6U (COM□)]をダブルクリックします。  
[KEYENCE BT-UC6U (COM□)のプロパティ]ウィンドウが表示されます。  
□には任意の数字が入ります(パソコンや使用環境によって異なります)。

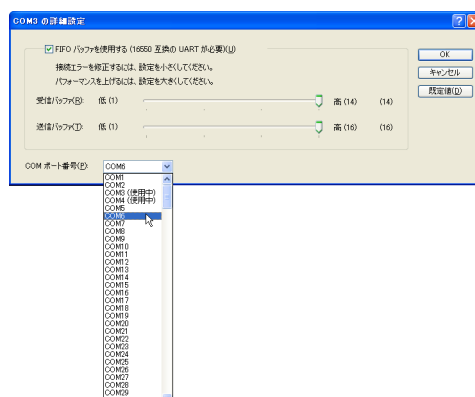


- 5 [ポートの設定]タブをクリックして、[詳細設定(A)...]ボタンをクリックします。  
[COM□の詳細設定]ダイアログボックスが表示されます。



## 6 [COMポート番号]で、COMポート番号を変更します。

末尾に(使用中)のあるポート番号は、他のデバイスで使用中です。(使用中)の表示のないポート番号を選択します。



## 7 [OK] ボタンをクリックします。

[COM□の詳細設定]ダイアログボックスが閉じます。

## 8 [OK] ボタンをクリックします。

[KEYENCE BT-UC6U (COM□)のプロパティ]ウィンドウが閉じます。

## 9 [X] をクリックします。

[デバイス マネージャ]ウィンドウが閉じます。

## 10 [X] をクリックします。

[システムのプロパティ]ウィンドウが閉じます。

## ネットワーク設定(BT-UC6L)

BT-UC6Lのネットワーク設定(IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレート※<sup>1</sup>)をおこないます。BT-600シリーズのシステムメニュー「LAN通信ユニット」で設定します。

※1 BT-600シリーズとBT-UC6Lとの間の通信速度  
「LAN通信ユニット」では、次の3つの機能が使用できます。

機能	内容
書き込み	BT-UC6LにIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレートを書き込みます。
読み出し	BT-UC6Lに設定されたIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレートを読み出します。
初期状態に戻す	BT-UC6LのIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、プライマリDNS、セカンダリDNS、ポート番号、ボーレートを、出荷時の状態に戻します。

設定後の識別のため、BT-UC6LにIPアドレスの設定値をシールに記入して貼っておくことをおすすめします。

### ▶ 重要

- 誤った設定(IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ)をすると、ネットワークに影響が発生する場合があります。ネットワーク設定はシステム管理者(ネットワーク管理者)がおこなってください。
- 指定したとき以外、設定時にはBT-UC6LにLANケーブルを接続しないでください。

BT-UC6L設定については、BT-600シリーズで実施します。設定方法については、『システムメニュー操作マニュアル』を参照してください。

## MEMO



## システム構成

---

BT-H10W、BT-HD10を使用して、アプリケーション開発をする場合のシステム構成について説明します。

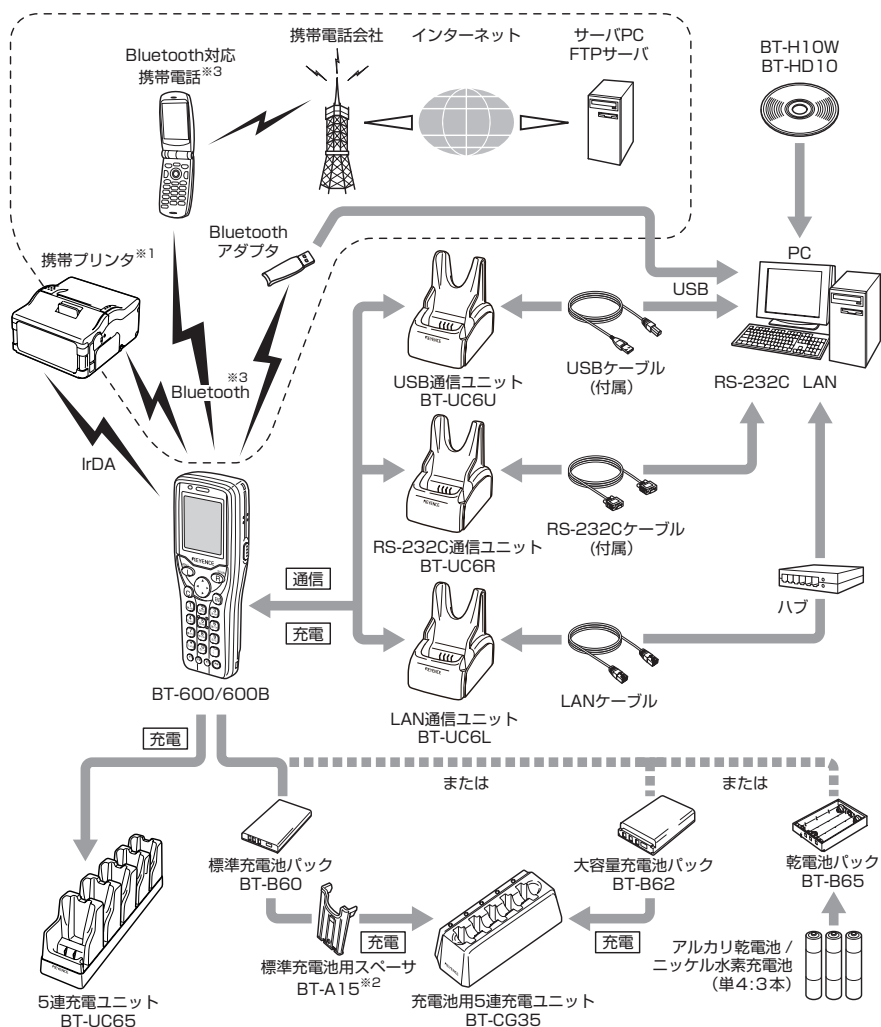
---

2-1	システム構成.....	2-2
-----	-------------	-----

# 2-1 システム構成

BT-H10W/BT-HD10を使用してアプリケーション開発する場合のシステム構成について説明します。

## システム構成



※1 それぞれの機器(携帯プリンタなど)は、当社で動作確認済の機種をご使用ください。

※2 標準充電電池パックを単体で充電する場合は、BT-CG35に標準充電電池用スペーサBT-A15をセットしてください。

※3 Bluetoothを搭載した機種は、BT-600Bです。

Bluetooth搭載携帯電話を使って遠隔地のPCやFTPサーバと通信する場合に必要な環境については、「Bluetooth搭載携帯電話を使用した遠隔地通信」(2-14ページ)をお読みください。

※ BT 専用アナログモデム BT-MD1 については 「アナログモデムを使用した遠隔地通信システム」(2-15ページ)を参照してください。

## ■BT-600/600B

バーコードハンディターミナル本体です。

通信機能	有線通信		無線通信	
	通信ユニット	IrDA	Bluetooth	
BT-600	○	○	×	
BT-600B	○	○	○	

以下のインタフェースを内蔵しています。

### ●Bluetooth(BT-600B)

Bluetooth搭載携帯プリンタとの通信が可能です。

また、Bluetooth内蔵またはBluetoothアダプタが装着されたPCとのファイル送受信、Bluetooth搭載の携帯電話経由で遠隔地にあるサーバPC／FTPサーバとの通信が可能です。

### ●IrDA

IrDAを装備した携帯プリンタとの通信が可能です。

本体間のファイルコピーにも使用できます。

## ■BT-B60/B62/B65

BT-600シリーズ専用の電池パックで、標準充電電池パック(BT-B60)、大容量充電電池パック(BT-B62)、市販の単四アルカリ乾電池/ニッケル水素充電電池が利用できる乾電池パック(BT-B65)の3種類があります。

#### ！ポイント

乾電池パック(BT-B65)は、BT-600シリーズで使用する場合、使用可能温度は0～50℃となります。

## ■BT-UC6U/UC6R/UC6L

BT-600シリーズとパソコン間でファイル送受信に使用する通信ユニットです。

USBポートで通信をおこなうBT-UC6U、RS-232Cポートで通信をおこなうBT-UC6R、LAN(イーサネット)で通信をおこなうBT-UC6Lの3種類が用意されています。

BT-600シリーズに装着した充電電池パック(BT-B60/B62)の充電も可能です。

通信ユニット	通信インタフェース	付属ケーブル
BT-UC6U	USB	USBケーブル
BT-UC6R	RS-232C	RS-232Cケーブル
BT-UC6L	LAN(イーサネット)	なし

## ■BT-UC65


BT-600シリーズに装着したBT-B60/B62を、最大5個まで同時に充電できるユニットです。

## ■BT-CG35

大容量充電電池パックBT-B62単体を最大5個まで同時に充電できるユニットです。標準充電電池用スペーサBT-A15を装着することで、標準充電電池BT-B60を最大5個まで充電できます。


## ■BT-H10W

端末アプリケーションをマウス操作で簡単に開発できる「BT アプリケーションビルダ」を収録したソフトウェアです。

収録ソフトウェアの詳細については、 「ソフトウェア構成」(2-6ページ)を参照してください。

## ■BT-HD10

端末アプリケーションをC言語で開発する「C言語統合開発環境」、ライブラリなどを収録しています。

収録ソフトウェアの詳細については、 「ソフトウェア構成」(2-6ページ)を参照してください。

## 動作環境

## ■サーバPC/運用PC/開発PC

項目	内容
OS	Windows 7 Windows Server 2008 R2 Windows Vista (SP1以降) Windows XP (SP2以降) Windows Server 2003 (SP1以降)
ソフトウェア	Internet Explorer 5.5以上 Microsoft .NET Framework Ver.2.0
CPU	Pentium III 600MHz以上※ <sup>1</sup>
メモリ	128MB以上※ <sup>1</sup>
ハードディスク	空き容量400MB以上※ <sup>1</sup> ※ <sup>2</sup>
LANポート	BT-UC6L (LAN通信ユニット)を使用する場合に必要
USBポート	BT-UC6U (USB通信ユニット)を使用する場合に必要
RS-232Cポート	BT-UC6R (RS-232C通信ユニット)を使用する場合に必要

※1 運用、開発のご状況により、より動作速度が求められる場合は、CPU、メモリ容量、空きハードディスク容量にさらに高いスペックが必要になる場合があります。

※2 運用中にデータや通信ログを蓄積する場合には、より多くの空き容量が必要な場合があります。

## ■動作確認済み携帯プリンタ

会社	形式	インタフェース	
		IrDA	Bluetooth
(株)キーエンス	BT-PR1	○	—
	BT-PR2	○	○
(株)サトー	PT208e (Bluetooth仕様)	○	○
	PT408e (Bluetooth仕様)	○	○
東芝テック(株)	B-SP2D-GH10/GH20	○	—
	B-SP2D-GH30	—	○
	B-EP2DL-GH30R	○	○
セイコーインスツル(株)	DPU-S445	○	○
	DPU-S225	○	○

## ■サーバPCアプリケーション開発環境(BT-H10W)

BT-H10Wの「サーバライブラリ」「通信ライブラリ」を使用してサーバアプリケーションやPCアプリケーションを作成する開発環境は、以下のようになります。

項目	内容
開発言語	Microsoft Visual C++ 6.0
	Microsoft Visual Basic 6.0
	Microsoft Visual C++ 2010/2008/2005/.NET 2003
	Microsoft Visual Basic 2010/2008/2005/.NET 2003
ライブラリの種類	DLL, ActiveX, .NET用ライブラリ

## ■端末アプリケーション開発環境(BT-HD10)

BT-HD10を使用して端末アプリケーションを開発する場合の開発環境は、以下のようになります。

項目	内容
開発言語	C言語
統合開発環境	GAIOフレームワーク
対応OS	Windows 7 Windows Vista (SP1以降) Windows XP (SP2以降)
アドイン(BT-Dev.tool) 対応開発環境	Microsoft Visual C++ 2008/2005/.NET 2003

## ■BTアプリケーションデバッグ動作推奨環境

項目	内容
OS	Windows Vista (SP1以降) Windows XP (SP2以降)
ソフトウェア	Microsoft .NET Framework Ver.2.0 Java™ 2 Runtime Environment, Standard Edition 5.0 Update 11(1.5.0_11)以降
CPU	Pentium4 3GHz以上
メモリ	2GB以上
ハードディスク	1GB以上
USBポート	デバッグ通信にBT-UC6U(USB通信ユニット)を使用する場合に必要
RS-232Cポート	デバッグ通信にBT-UC6R(RS-232C通信ユニット)を使用する場合に必要

## ソフトウェア構成

BT-H10W/BT-HD10のBT-600シリーズに関するソフトウェア構成を説明します。

### ソフトウェア一覧

#### ■BT-H10W

ソフトウェア名称	概要
ランチャー	アプリケーション開発に必要なソフトウェアを開発順に起動するためのソフトウェアです。関連マニュアルも表示できます。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
BTアプリケーションビルダ	BT-600シリーズで動作する端末アプリケーションを、マウスによる簡単な操作で作成できるソフトウェアです。 作成した端末アプリケーションからスクリプトやC言語ソースファイルを生成し、さらにカスタマイズすることもできます。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
BTシミュレータ	作成した端末アプリケーションの動作を、PC上でシミュレーションするソフトウェアです。BTアプリケーションビルダから起動して使用します。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
誤品照合設定ツール	「誤品照合設定ツール」で作成した設定ファイルを「BTアプリケーションビルダ」で読み込んで、誤品照合アプリケーションを簡単に作成できます。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
データ転送ソフト	BT-600シリーズとPCの間で、ログファイル、マスタファイルなどのファイルを送受信するソフトウェアです。 「通信待ち受け」の状態では起動しておけば、BT-600シリーズの操作でのファイル送受信を常に待ち受けるサーバとして動作します。 通信経路は、通信ユニット経由、アナログモデム経由をサポートしています。 「データ転送ソフト」を使用する場合は、通信用のPCアプリケーション開発は必要ありません。 また、バッチ式BT-600/600Bのアプリケーション自動更新を実現する「クイックアップデート機能」も搭載しました。 📖『データ転送ソフト操作マニュアル』
負荷テストシミュレータ	複数の「BTシミュレータ」を起動し、通常運用を想定した一連の動作（キー入力、バーコード読み取りなど）と通信を自動実行することで、サーバの通信負荷テストをおこなうソフトウェアです。 実際にハンディターミナルを使用しなくても簡単に通信負荷テストが実施できます。LAN通信ユニットで使用します。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
通信ライブラリ	BT-600シリーズとPC間でファイル送受信をおこなうアプリケーション開発に必要なWindows用ライブラリです。 DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。 📖『通信ライブラリリファレンス』
データ転送ソフトサービス	データ転送ソフトの「待ち受け通信」「自動通信」機能を持つサービスです。送受信フォルダなどの設定は、「データ転送ソフト」の設定ファイル「BTNaviDTS.ini」を使用します。 📖『データ転送ソフト操作マニュアル』

ソフトウェア名称	概要
NIResolverサービス	BT-600B/BT-UC6Lで、DHCPの設定で「データ転送ソフト」を使用する場合に必要なサービスです。 「NIResolver」サービスにより、BT-600B/BT-UC6Lに設定した端末名とDHCPサーバが割り当てたIPアドレスがひも付けされるため、「データ転送ソフト」をDHCP環境で使用することができるようになります。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
BTアプリケーションデバッガ	スクリプト言語、C言語による端末アプリケーション開発でのプロジェクト作成、ソースコード編集、ビルド、デバッグすべてを統合した開発環境です。デバッグに関しては、BTシミュレータを使用したシミュレーションデバッグ(スクリプト開発のみ)、BT-600シリーズ実機を使用したリモートデバッグを実現しています。 📖『BTアプリケーションデバッガ操作マニュアル』

## ■BT-HD10

ソフトウェア名称	概要
C言語統合開発環境 GAIOフレームワーク	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するためのCコンパイラです。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
プロジェクトビルダ	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するために必要なライブラリや最適環境が設定されたプロジェクトフォルダを簡単に作成できます。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
Visual C++ 2008/2005/ .NET 2003 アドインソフト BT-Dev.Tool	Visual C++ 2008/2005/.NET 2003用のアドインソフトです。 BT-Dev.toolをVisual C++ 2008/2005/.NET 2003にアドインすると、Visual C++ 2008/2005/.NET 2003上でBT-600シリーズの端末アプリケーション(C言語)を作成し、「BTシミュレータ」により、PC上で動作確認ができます。 なお、BT-600シリーズに送信する端末アプリケーションのコンパイルは、「C言語開発環境GAIOフレームワーク」を使用します。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
BTシミュレータ	作成した端末アプリケーションの動作を、PC上でシミュレーションするソフトウェアです。BTアプリケーションビルダから起動して使用します。 📖『アプリケーション開発マニュアル』
端末ライブラリ	BT-600シリーズの端末アプリケーション開発に必要なライブラリです。 📖『端末ライブラリリファレンス』
通信ライブラリ	BT-600シリーズとPC間でファイル送受信をおこなうアプリケーション開発に必要なWindows用ライブラリです。 DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。 📖『通信ライブラリリファレンス』
データ転送ソフト	BT-600シリーズとPCの間で、ログファイル、マスタファイルなどのファイルを送受信するソフトウェアです。 「通信待ち受け」の状態で起動しておけば、BT-600シリーズの操作でのファイル送受信を常に待ち受けるサーバとして動作します。 通信経路は、通信ユニット経由、アナログモデム経由をサポートしています。「データ転送ソフト」を使用する場合は、通信用のPCアプリケーション開発は必要ありません。 また、パッチ式BT-600/600Bのアプリケーション自動更新を実現する「クイックアップデート機能」も搭載しました。 📖『データ転送ソフト操作マニュアル』

ソフトウェア名称	概要
負荷テストシミュレータ	<p>複数の「BTシミュレータ」を起動し、通常運用を想定した一連の動作（キー入力、バーコード読み取りなど）と通信を自動実行することで、サーバの負荷テストをおこなうソフトウェアです。</p> <p>実際にハンディターミナルを使用しなくても簡単に負荷テストが実施できます。LAN通信ユニットで使します。</p> <p>📖『アプリケーション開発マニュアル』</p>
データ転送ソフトサービス	<p>データ転送ソフトの「待ち受け通信」「自動通信」機能を持つサービスです。送受信フォルダなどの設定は、「データ転送ソフト」の設定ファイル「BTNaviDTS.ini」を使します。</p> <p>📖『データ転送ソフト操作マニュアル』</p>
NIResolverサービス	<p>BT-600B/BT-UC6Lで、DHCPの設定で「データ転送ソフト」を使用する場合に必要なサービスです。</p> <p>「NIResolver」サービスにより、BT-600B/BT-UC6Lに設定した端末名とDHCPサーバが割り当てたIPアドレスがひも付けされるため、「データ転送ソフト」をDHCP環境で使うことができるようになります。</p> <p>📖『アプリケーション開発マニュアル』</p>
BTアプリケーションデバッガ	<p>スクリプト言語、C言語による端末アプリケーション開発でのプロジェクト作成、ソースコード編集、ビルド、デバッグすべてを統合した開発環境です。デバッグに関しては、BTシミュレータを使用したシミュレーションデバッグ（スクリプト開発のみ）、BT-600シリーズ実機を使用したリモートデバッグを実現しています。</p> <p>📖『BTアプリケーションデバッガ操作マニュアル』</p>



## システム構築方法

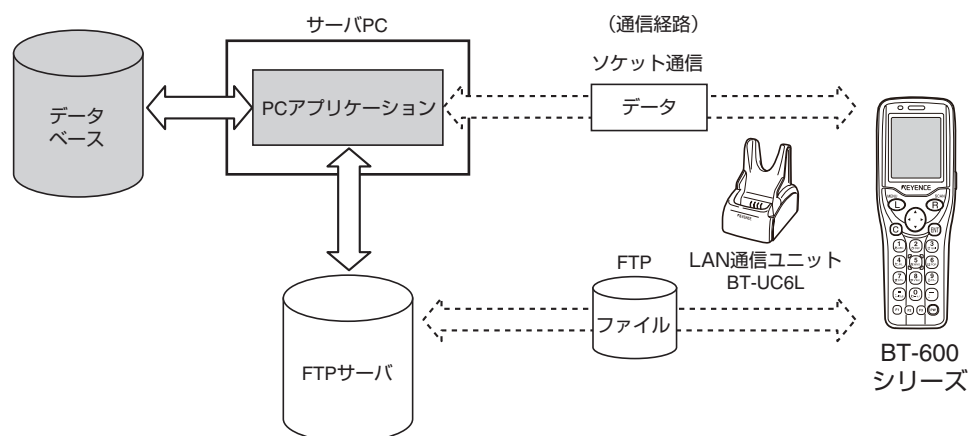
BT-600シリーズには、以下のシステム構築方法があります。

システム構築方法	概要	BT-H10W	BT-HD10
ソケット通信／FTPを使用したシステム	<p>「ソケット通信」を使用したデータ送受信、「FTP(File Transfer Protocol)」を使用したファイル送受信などTCP/IPの汎用プロトコルを使用したシステムです。</p> <p>汎用プロトコルであるため、OS環境に依存されないシステム構築が可能です。Linuxサーバなどでの運用が可能です。</p> <p>通信経路は、LAN通信ユニット経由です。</p> <p>☞『ソケット通信/FTPを使用したシステム』(2-11ページ)</p>	○	○
「データ転送ソフト」を使用したファイル送受信システム	<p>「データ転送ソフト」を使用して、BT-600シリーズとPC間でファイル送受信をおこなうシステムです。通信経路は、通信ユニット経由、Bluetooth経由に対応しています。</p> <p>通信プロトコルは、弊社専用手順(キーエンス手順)を採用しています。</p> <p>「データ転送ソフト」を使用すると、通信用PCアプリケーションを開発する必要はありません。</p> <p>☞『「データ転送ソフト」を使用したファイル送受信システム(キーエンス手順)』(2-12ページ)</p>	○	○
「通信ライブラリ」を使用したファイル送受信システム	<p>「通信ライブラリ」を使用して開発したPCアプリケーションを使用し、BT-600シリーズとPC間でファイル送信をおこなうシステムです。</p> <p>通信経路は、通信ユニット経由、Bluetooth経由に対応しています。</p> <p>通信プロトコルは、弊社専用手順(キーエンス手順)を採用しています。</p> <p>☞『「通信ライブラリ」を使用したファイル送受信システム(キーエンス手順)』(2-13ページ)</p>	○	○
Bluetooth搭載携帯電話を使用した遠隔地通信	<p>Bluetooth搭載携帯電話を使用して、遠隔地にあるサーバPCと通信するシステムです。</p> <p>接続後のファイル通信プロトコルは、FTPまたは弊社専用手順(キーエンス手順)を使用します。</p> <p>※ キーエンス手順の場合は、データ転送ソフトまたは通信ライブラリを用いて開発したPCアプリケーションを使用します。</p> <p>☞「Bluetooth搭載携帯電話を使用した遠隔地通信」(2-14ページ)</p>	○	○
BT専用アナログモデムBT-MD1を使用した遠隔地通信システム	<p>BT専用アナログモデムBT-MD1を使用して遠隔地にあるサーバPCとファイル送受信するシステムです。</p> <p>接続後のファイル送受信プロトコルは、FTPまたは弊社専用手順(キーエンス手順)を使用します。</p> <p>※ キーエンス手順の場合は、データ転送ソフトまたは通信ライブラリを用いて開発したPCアプリケーションを使用します。</p> <p>☞「アナログモデムを使用した遠隔地通信システム」(2-15ページ)</p>	○	○

機種ごとに実現できるシステム構築方法を下表にまとめます。

	BT-600	BT-600B
ソケット通信／FTPを使用したシステム	○ ※LAN通信ユニットBT-UC6L経由	
「データ転送ソフト」を使用した ファイル送受信システム	○	○
「通信ライブラリ」を使用した ファイル送受信システム	※通信ユニットBT-UC6U/UC6R/UC6L経由	※通信ユニットBT-UC6U/UC6R/UC6L経由 ※Bluetooth経由
Bluetooth搭載携帯電話を 使用した遠隔地通信システム	—	○
BT専用アナログモデムBT-MD1 を使用した遠隔地通信システム	○	

## ソケット通信/FTPを使用したシステム



※ 網掛け部分が、ユーザ作成の部分です。

- 「ソケット通信」を使用したデータ送受信、「FTP (File Transfer Protocol)」を使用したファイル送受信などTCP/IPの汎用プロトコルを使用したシステムです。  
汎用プロトコルであるため、OS環境に依存されないシステム構築が可能です。Linuxサーバなどでの運用が可能です。
- 通信経路は、LAN通信ユニットBT-UC6L経由です。

### ポイント

- LAN通信ユニットBT-UC6LのMODE切り替えスイッチを「MODE1」に設定する必要があります。
- 「ソケット通信」、「FTP」を使用した PC アプリケーションの開発環境については、それぞれの通信に対応した開発ツールを別途ご用意ください。

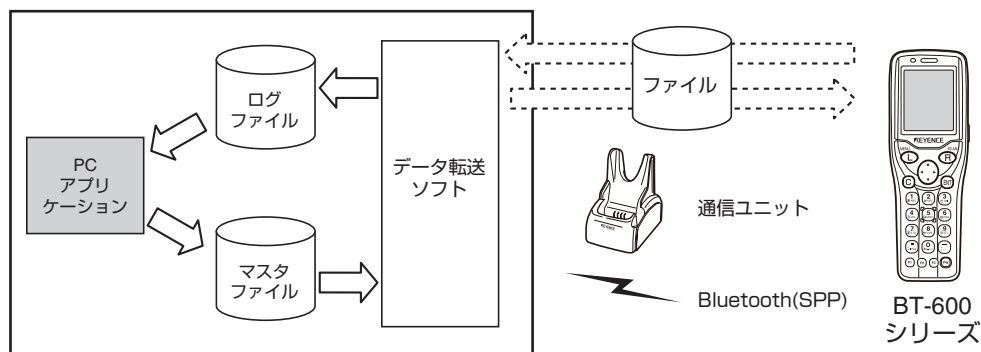
### 参考

- 「ソケット通信」、「FTP」で使用するポート番号は、端末アプリケーション / PC アプリケーションで自由に設定できます。
- データ送受信には「ソケット通信」、ファイル送受信には「通信ライブラリ」を使用して通信するシステムを構築することもできます。  
「通信ライブラリ」を使用した通信については、 『「通信ライブラリ」を使用したファイル送受信システム (キーエンス手順)』(2-13ページ)を参照してください。

## 「データ転送ソフト」を使用したファイル送受信システム(キーエンス手順)

2

システム設定



※ 網掛け部分が、ユーザ作成の部分です。

- 「データ転送ソフト」を使用して、ファイル送受信(キーエンス手順)をおこなうシステムです。「データ転送ソフト」を使用すると、通信用PCアプリケーションを開発する必要はありません。「データ転送ソフト」の操作方法については、『データ転送ソフト操作マニュアル』を参照してください。
- 通信経路は、通信ユニット経由、Bluetooth(SPP)経由のいずれかで通信可能です。

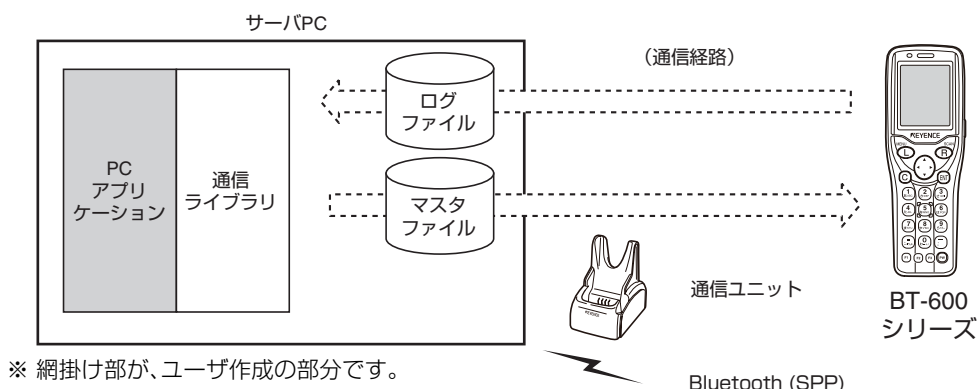
1サーバPCあたりのBT-600シリーズの最大接続台数は以下の通りです。

USB通信ユニット	16台
RS-232C通信ユニット	9台
LAN通信ユニット(MODE1)	32台

#### ポイント

- LAN通信ユニットBT-UC6Lを使用する場合は、BT-UC6LのMODEスイッチを「MODE1」に設定する必要があります。
- Bluetooth(SPP)を使用する場合は、PC側に市販のBluetoothアダプタが必要です。
- Bluetoothアダプタを使用する場合、BT-600B 1台に対して、Bluetoothアダプタ1つで使用してください。
- 「データ転送ソフト」を使用する場合、BT-600シリーズからのアクションでファイル送受信をおこなうようなシステムをおすすめします。  
BT-600シリーズのウェイクアップ機能( 3-14ページ) を使用して、PCから強制的にファイル送信することも可能ですが、ウェイクアップ終了後はBT-600シリーズは再起動状態になるため(アプリケーションの先頭からスタートします)、それまでの操作が無効になります。

## 「通信ライブラリ」を使用したファイル送受信システム(キーエンス手順)



- 「通信ライブラリ」を使用して開発した PC アプリケーションを使用し、ファイル送受信(キーエンス手順)をおこなうシステムです。  
「通信ライブラリ」を使った開発方法については、『通信ライブラリリファレンス』を参照してください。
- 通信経路は、通信ユニット経由、Bluetooth(SPP)経由のいずれかで通信可能です。

「通信ライブラリ」を使用する場合の開発環境は、以下のようになります。

項目	内容
開発言語	Microsoft Visual C++ 2010/2008/2005/.NET 2003/6.0
	Microsoft Visual Basic 2010/2008/2005/.NET 2003/6.0
ライブラリの種類	DLL、ActiveX、.NET用ライブラリ

1サーバPCあたりのBT-600シリーズの最大接続台数は以下の通りです。

USB通信ユニット	16台
RS-232C通信ユニット	9台
LAN通信ユニット(MODE1)	32台

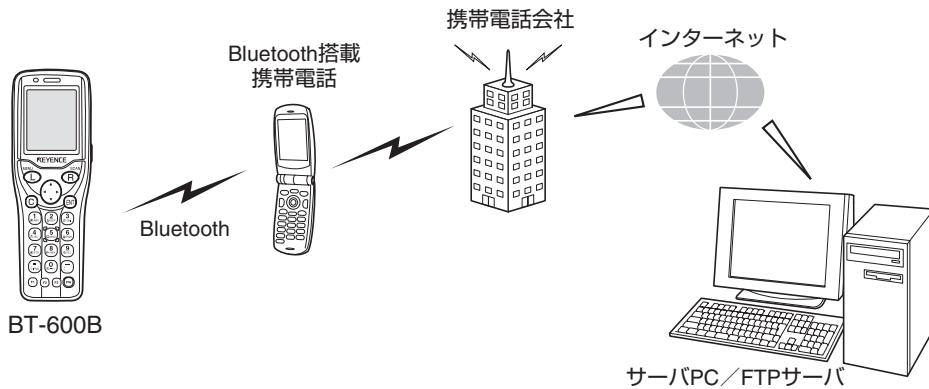
### ポイント

- LAN通信ユニットBT-UC6Lを使用する場合は、BT-UC6LのMODEスイッチを「MODE1」に設定する必要があります。
- Bluetooth(SPP)を使用する場合は、PC側に市販のBluetoothアダプタが必要です。
- Bluetoothアダプタを使用する場合、BT-600B 1台に対して、Bluetoothアダプタ1つで使用してください。
- 「通信ライブラリ」を使用して開発したPCアプリケーションで運用する場合、BT-600シリーズからのアクションでファイル送受信をおこなうようなシステムをおすすめします。BT-600シリーズのウェイクアップ機能( 3-14ページ)を使用して、PCから強制的にファイル送信することも可能ですが、ウェイクアップ終了後はBT-600シリーズは再起動状態になるため(アプリケーションの先頭からスタートします)、それまでの操作が無効になります。

## Bluetooth搭載携帯電話を使用した遠隔地通信

2

システム設定



BT-600BからBluetooth搭載携帯電話を経由してインターネット接続し、遠隔地にあるサーバと通信するシステムです。

インターネット接続後は、FTP サーバ、またはサーバPC 内の「データ転送ソフト」とファイル送受信、Webサーバとの通信が可能です。BT-600Bは、FTPS（FTP over SSL/TLS）にも対応しています。

ここでは、「データ転送ソフト」に対してファイルを送受信する場合の動作環境を説明します。

- BT-600Bは、Bluetooth搭載携帯電話経由で、携帯電話会社（またはインターネットサービスプロバイダ）のインターネット接続サービス／モバイル通信サービスを使いインターネットに接続します。
- BT-600Bからインターネット経由でサーバと通信するためには、サーバにグローバルIP（固定IP）を割り当て、インターネット上に公開する必要があります。契約するインターネットサービスプロバイダが提供する固定IPサービスをご利用ください。
- BT-600Bの端末アプリケーションは、Bluetooth搭載携帯電話を使いインターネットにダイヤルアップ接続、FTPサーバへのファイル送受信、または、「データ転送ソフト」へのファイル送受信などの処理をC言語、またはスクリプトでカスタマイズする必要があります。
- サーバPC 側でFTP サーバ、または、「データ転送ソフト」で受信したファイル进行处理するPC アプリケーションの開発が必要です。
- Bluetooth搭載で、DUN-GW(Dial-up Networking Profile Gateway)対応の携帯電話をご使用ください。

## アナログモデムを使用した遠隔地通信システム

BT-600シリーズからRS-232C通信ユニット(BT-UC6R)を経由して接続したBT専用アナログモデムBT-MD1を使用し、遠隔地にあるサーバとファイル通信するシステムです。

通信方法として、以下の2つがあります。

### ■ アナログ公衆電話回線経由で通信先アナログモデムに接続する方法(シリアル接続)

アナログ公衆電話回線経由で通信先のアナログモデムに接続し、接続先PC内のデータ転送ソフトまたは通信ライブラリと通信します。

以下のような手順になります。

#### 1 BT-600シリーズは、RS-232C通信ユニット(BT-UC6R)を使って接続したBT専用アナログモデムBT-MD1に対して、モデム用コマンド(ATコマンド)を送信し、通信先モデムの電話番号にダイヤルします。

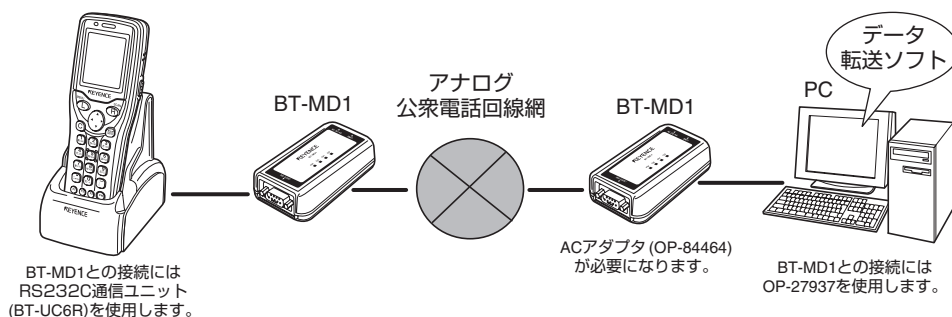
※ BT-600シリーズは、ATコマンドを意識しないプログラミングが可能です。

#### 2 通信先モデムが着信すると、その後、双方のモデムが接続を開始します。

#### 3 接続が完了すると、BT-600シリーズからキーエンス手順にてファイル送受信を実行します。

※ PC側は、データ転送ソフトまたは通信ライブラリを使って作成したPCアプリケーションが、ファイル待ち受け受信状態になっている必要があります。

#### 4 ファイル送受信が完了したら、通話を切断します。



#### ！ ポイント

- NTTまたは直収型電話サービス事業者が提供するアナログ公衆電話回線が必要です。
- 各機器の接続方法については、『BT 専用アナログモデム BT-MD1 ユーザーズマニュアル』をお読みください。
- BT-600シリーズの端末アプリケーションの開発は、スクリプトまたはC言語によるカスタマイズが必要です。
- PC側のアナログモデムは市販のものが使用できます。
- BT-UC6RとBT-MD1をBT-UC6R付属のRS-232Cケーブルで接続した場合、BT-MD1の電源はBT-UC6Rから供給されるため、専用ACアダプタ (OP-84464) は不要です。

## ■インターネットに接続する方法(PPP接続)

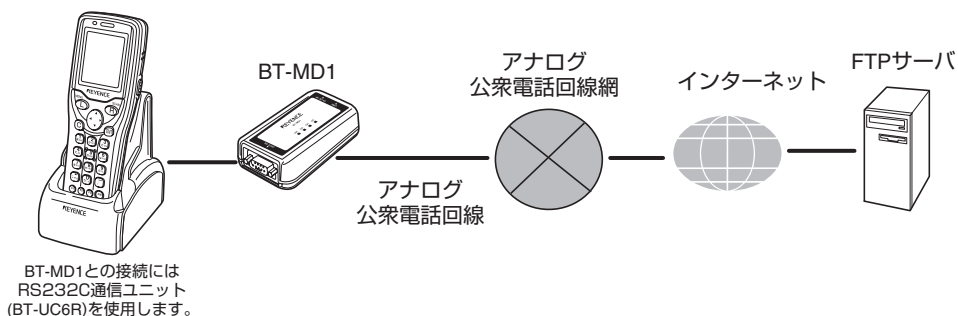
アナログ公衆電話回線経由でインターネットにダイヤルアップ接続(インターネットサービスプロバイダにPPP接続)し、FTPサーバなどにファイル通信します。

以下のような手順になります。

- 1 BT-600シリーズは、RS-232C通信ユニット(BT-UC6R)を使って接続したBT専用アナログモデムBT-MD1経由で、インターネットにダイヤルアップ接続(PPP)します。

- 2 インターネット接続後は、BT-600シリーズからFTPなどでファイル送受信をおこないます。  
BT-600シリーズからインターネット経由でサーバと通信するためには、サーバにグローバルIP(固定IP)を割り当て、インターネット上に公開する必要があります。  
契約するインターネットサービスプロバイダが提供する固定IPサービスをご利用ください。

- 3 ファイル送受信が完了したら、通話を切断します。

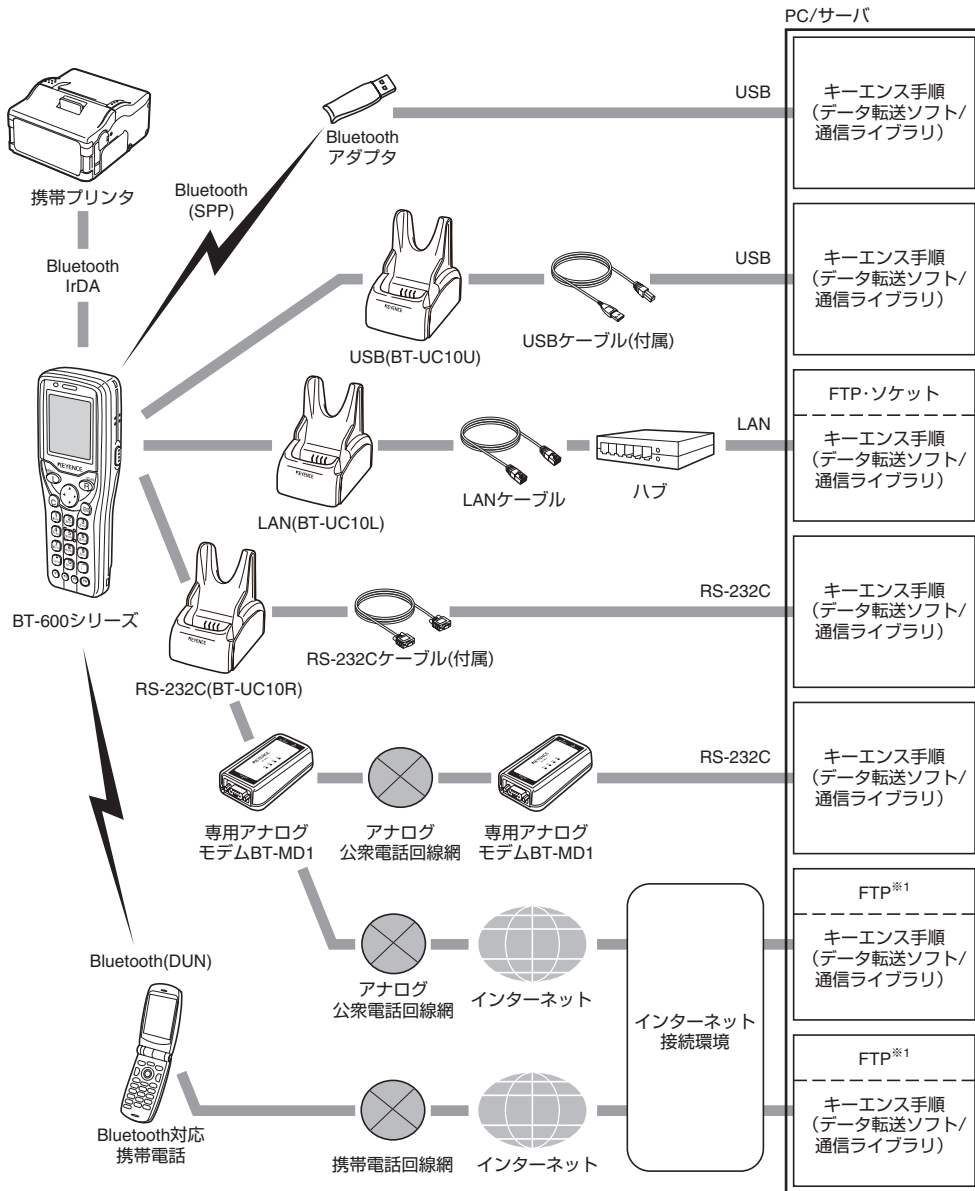


### ！ ポイント

- BT-MD1は、NTTまたは直収型電話サービス事業者が提供するアナログ公衆電話回線に接続します。
- 各機器の接続方法については、『BT専用アナログモデムBT-MD1 ユーザーズマニュアル』をお読みください。
- BT-600シリーズの端末アプリケーションの開発は、スクリプトまたはC言語によるカスタマイズが必要です。
- データ転送ソフトまたは通信ライブラリを使って作成したPCアプリケーションでの運用も可能です。
- BT-UC6RとBT-MD1をBT-UC6R付属のRS-232Cケーブルで接続した場合、BT-MD1の電源はBT-UC6Rから供給されるため、専用ACアダプタ(OP-84464)は不要です。



## 通信経路とシステム構築方法対応図



※1 FTPSに対応しています。

## マニュアル一覧

BT-600シリーズに関係するBT-H10W/BT-HD10のマニュアルには、以下のものがあります。  
「ユーザーズマニュアル(本書)」以外のマニュアルは、以下の当社 Web ページからダウンロードして閲覧できます。

<http://www.keyence.co.jp/bt600man/>

### ■BT-H10W

マニュアル名称	説明
ユーザーズマニュアル	本マニュアルです。BT-600シリーズの使用上の注意、各部の名称、充電方法、USBドライバのインストール方法、仕様などについて説明しています。
BT-Navigator アプリケーション開発 マニュアル	BTアプリケーションビルダを使った端末アプリケーション開発手順、操作方法、シミュレーション方法について説明しています。 また、負荷テストツールの操作方法についても説明しています。
システムメニュー 操作マニュアル	BT-600シリーズのシステムメニューの操作方法について説明しています。
データ転送ソフト 操作マニュアル	BT-Navigatorで使用するデータ転送ソフトの操作方法について説明しています。
スクリプト リファレンス	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するためのスクリプト言語について説明しています。
通信ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズとサーバPC間でファイルを送受信するアプリケーション開発で使用するライブラリの関数について説明しています。通信ライブラリは、DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。
BT-MD1 ユーザーズマニュアル	BT専用アナログモデムBT-MD1の使用上の注意、使用方法、接続方法について説明しています。
BTアプリケーション デバッグ操作マニュアル	スクリプト言語、C言語両方に対応したデバッグであるBTアプリケーションデバッグを使った開発方法、デバッグ方法を説明しています。

### ■BT-HD10

マニュアル名称	説明
ユーザーズマニュアル	本マニュアルです。BT-600シリーズの使用上の注意、各部の名称、充電方法、USBドライバのインストール方法、仕様などについて説明しています。
BT-HD10 アプリケーション開発 マニュアル	C言語による端末アプリケーションの開発手順、Microsoft Visual C++ 2008/2005/.NET 2003アドインを使用したデバッグ方法、負荷テストツールについて説明しています。
システムメニュー 操作マニュアル	BT-600シリーズのシステムメニューの操作方法について説明しています。
データ転送ソフト 操作マニュアル	BT-HD10で使用するデータ転送ソフトの操作方法について説明しています。
端末ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズの端末アプリケーションを開発するために必要なライブラリの関数について説明しています。
通信ライブラリ リファレンス	BT-600シリーズとサーバPC間でファイルを送受信するアプリケーション開発で使用するライブラリの関数について説明しています。通信ライブラリは、DLL、ActiveX、.NET用ライブラリの3種類を用意しています。
BT-MD1 ユーザーズマニュアル	BT専用アナログモデムBT-MD1の使用上の注意、使用方法、接続方法について説明しています。
BTアプリケーション デバッグ操作マニュアル	スクリプト言語、C言語両方に対応したデバッグであるBTアプリケーションデバッグを使った開発方法、デバッグ方法を説明しています。

# 3

## 基本的な操作と機能

BT-600シリーズの基本的な操作と機能について説明します。

---

3-1	基本的な操作と機能 .....	3-2
3-2	その他の機能.....	3-12

## 3-1 基本的な操作と機能

BT-600シリーズの基本的な操作と機能について説明します。

項目	説明	参照ページ
バーコードの読み取り方	BT-600シリーズの読み取りテスト機能を使用して、バーコードの読み取り方を説明します。	3-2
文字の入力方法	端末アプリケーション上での文字の入力方法について説明します。 BT-600シリーズでは、半角/全角英数字、漢字入力が可能です。	3-6
電卓機能	端末アプリケーション内で使用できる電卓機能について説明します。	3-11

**参考** 本章の画面イメージは、システムメニューおよび、アプリケーションビルダで作成した画面になります。

### バーコードの読み取り

ここでは、BT-600シリーズの読み取りテスト機能を使用して、バーコードの読み取り方を説明します。

#### 1 BT-600シリーズの電源がOFFであることを確認します。

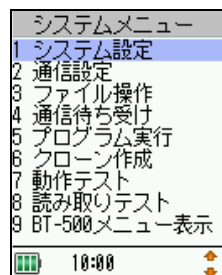
電源がONの場合は、**(PW)**キーを押してBT-600シリーズの電源をOFFにします。

#### 2 **(L)**キーと**(2)**キーを押しながら、**(PW)**キーを押します。

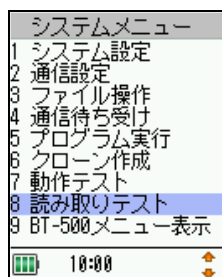
システムメニューが起動します。

**ポイント**

管理者パスワードが有効になっている場合には、パスワードの入力を求めてきます。  
正しいパスワードを入力し、**(ENT)**キーを押すとシステムメニューが表示されます。



#### 3 **(C)**キーで[8 読み取りテスト]を選択し、**(ENT)**キーを押します。



バーコードの種類を切り替える場合は手順4へ、バーコードを自動判別して読み取る場合は手順6へ進んでください。

#### 4 バーコードの種類を切り替える場合は、**(ENT)**キーを押します。

**参考**

この画面で**(C)**キー(「◀」、「▶」)を押しても、バーコードの種類の切り替えが可能です。



## 5 ○キー(▲▼)で、バーコードの種類を選択し、(ENT)キーを押します。

「ALL」を選択すると、バーコードを自動判別します。

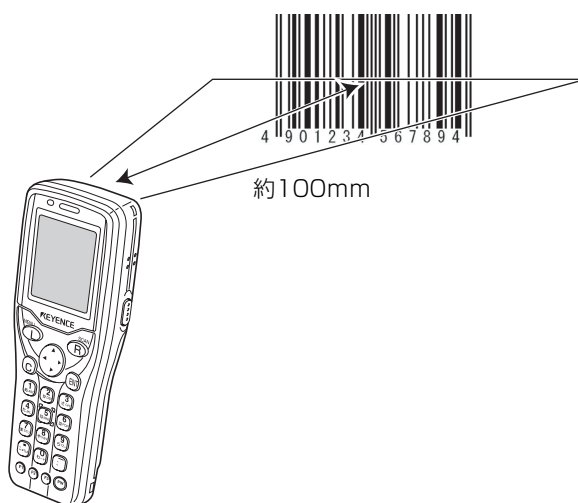
**参考** 「コード種類(切替)」は、2画面あります。  
○キー(◀▶)で画面を切り替えてください。



## 6 トリガキーを押して、バーコードを読み取ります。

テスト用のバーコードを用意しています。□「付録3 テスト用バーコード」(付-4ページ)を参照してください。

バーコードから約100mm程度離して、レーザ光がバーコード全体を横切るようにスキャンさせてください。



バーコードを読み取ると、次のように表示されます。

読み取ったバーコードの種類が表示されます。

読み取ったバーコードの桁数が表示されます。

読み取ったバーコードの内容が表示されます。



### ！ ポイント

接触読みアタッチメント(OP-87386)を使用して読み取る場合は、□「1-3 接触読みアタッチメントの取り付け方法」(1-13ページ)を参照してください。

- レーザ光がバーコードを横切るように正しくスキャンしてください。

○正しいスキャン方法



× 誤ったスキャン方法

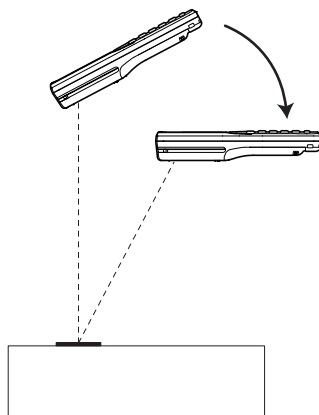


- レーザ光に入るバーコードは1つだけにしてください。同時に2つ以上入ると、読み取れなかったり、交互に読み続けたりすることがあります。

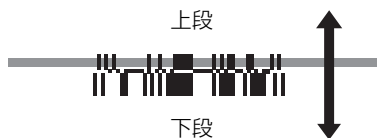
× 誤ったスキャン方法



- レーザ光がバーコード印刷面に対して垂直に当たっていると、正反射の影響により、読み取りにくい場合があります。角度を変えて、再度読み取ってください。



- GS1 DataBar Stackedバーコードを読み取る場合はレーザー光をバーコードの上段から下段、または下段から上段へとなぞってください。



## バーコード合成読み取り機能

通常、レーザ式バーコードリーダの場合は、バーコードの端から端までレーザ光が横切っていないと読み取れません。「バーコード合成読み取り機能」は、下図のようにバーコードが斜めになっていても、全体をスキャンすることで、スキャンしたバーコードデータを合成して読み取ります。

使用するためには、スクリプトまたはC言語によるカスタマイズが必要です。



バーコード合成読み取り機能を使用する上で、以下のような制限があります。

- 対象となるコード種  
JAN、CODE128 (GS1-128 (EAN-128))、CODE39、NW-7、ITF (チェックデジット有り)、CODE93の中から1種類のみを読み取り対象とすること。
- 読み取り桁数の制限  
読み取り最大桁・最小桁の設定を同一桁にすること。JANの場合も同様に、13桁のみ、または8桁のみと、同一桁のみ読み取るような設定が必要です。
- 読み取る角度について  
バーコードの長さの半分以上をレーザが横切るような角度にすること。

### ！ ポイント

- バーコード合成読み取り機能を使用する場合は、導入前に使用するバーコードを使って十分なテストをしてください。
- GS1-DataBar (RSS) は対象外です。
- CODE128、GS1-128は、どちらも読める設定にする必要があります。

## 1 トリガキーを押しながら、レーザ光でバーコードをなぞってください。

バーコードの長さの半分以上をレーザ光が横切るような角度にする必要があります。

### ！ ポイント

バーコード合成読み取り機能は、プログラムで読み取りの設定をおこなう必要があります。

## 文字の入力方法

「半角英数」または「日本語および英数字」の2種類の文字入力が可能です。

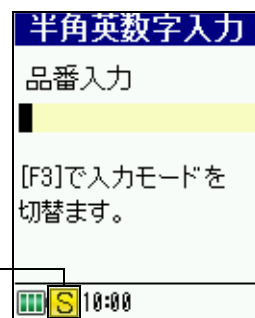
入力方法	入力できる文字の種類	
半角英数字	半角英字(大文字／小文字)	
	半角数字	
	半角記号	
日本語および英数字	全角ひらがな(漢字変換可能)	半角英字(大文字／小文字)
	全角カタカナ	半角数字
	全角英字(大文字／小文字)	半角記号
	全角数字	
	全角記号	

### ■半角英数字を入力する

半角英数字(A-Z/a-z/0-9)および半角記号を入力できます。

#### 1 (F3)キーを押します。

シフトキーが有効になります。



#### 2 キーを押して、文字を入力します。

シフトキーが有効なときにアイコンが表示されます。

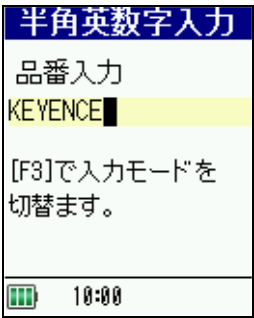
入力できる文字と操作は以下のとおりになります。

キー	機能
◀/▶	カーソルの移動
(C)	カーソルの右側の1文字を削除します。
(F3)	文字入力モード切替(シフトキーのON/OFF)

キー	入力できる文字	キー	入力できる文字
(1)	A→B→C→a→b→c→l→A...	(7)	S→T→U→s→t→u→7→S...
(2)	D→E→F→d→e→f→2→D...	(8)	V→W→X→v→w→x→8→V...
(3)	G→H→I→g→h→i→3→G...	(9)	Y→Z→y→z→(半角スペース)→9→Y...
(4)	J→K→L→j→k→l→4→J...	(0)	- →+ →/ →0 →- ...
(5)	M→N→O→m→n→o→5→M...	(*)	* →% →\$ →. →*
(6)	P→Q→R→p→q→r→6→P...	(-)※	(半角スペース)→ - →(半角スペース)



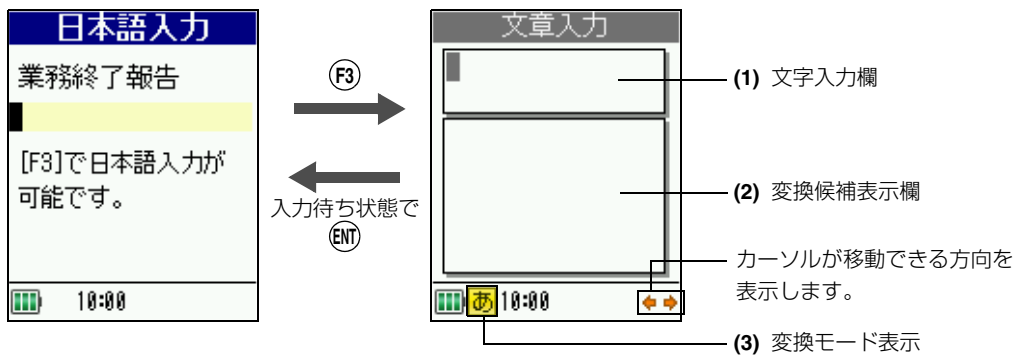
- 3 入力が完了したら、**(F3)**キーを押します。  
シフトキーが解除されます。



■日本語を入力する

日本語(全角ひらがな/カタカナ)、半角および全角英数字(A-Z/a-z/0-9)/記号を入力できます。

- 1 **(F3)**キーを押します。  
文章入力画面に切り替わります。入力待ち状態で**(ENT)**キーを押すと元の画面に戻ります。



(1)文字入力欄




入力した文字を表示します。

(2)変換候補表示欄

入力した文字を変換するときに、変換候補を表示します。また、記号入力するときには一覧を表示します。

(3)変換モード表示

変換モードを表示します。**(F3)**キーを押すたびに、変換モードを切り替えます。

表示	変換モード
	日本語(ひらがな)入力モード
	半角英数字入力モード
	全角英数字入力モード

## 2 キーを押すと、文字入力欄に文字が表示されます。

日本語入力モードで入力できる文字と主な操作は以下のようになります。



キー	機能
◀/▶	カーソルの移動
Ⓒ	カーソルの右側の1文字を削除します。

キー	入力できる文字
①	あ→い→う→え→お→あ→い→う→え→お→あ…
②	か→き→く→け→こ→か…
③	さ→し→す→せ→そ→さ…
④	た→ち→つ→て→と→っ→た…
⑤	な→に→ぬ→ね→の→な…
⑥	は→ひ→ふ→へ→ほ→は…

キー	入力できる文字
⑦	ま→み→む→め→も→ま…
⑧	や→ゆ→よ→や→ゆ→よ→や…
⑨	ら→り→る→れ→ろ→ら…
⑩	わ→を→ん→わ→わ…
⦿※	°→°→°…
—	→、→。→!→?→・→—…

※濁音、半濁音のある文字以外では入力できません。

## 3 ▲または▼キーを押します。

変換候補欄に変換候補が表示されます。

▲/▼キーを押して候補を選択します。

参考 ⦿キー(◀▶)を押すと、文節の長さを変更できます。



## 4 ⒺNTキーを押します。

変換された文字が文字入力欄に表示されます。

複数の文節の場合、次の文節の変換候補が表示されます。



## 5 複数の文節がある場合には、手順3、4を繰り返します。

- 6 変換が完了したら、**(ENT)**キーを押します。  
元の画面に戻ります。  
文字入力欄の文字列が画面に表示されます。



● 入力可能な文字

日本語入力モード

キー	入力できる文字	キー	入力できる文字
①	あ→い→う→え→お→あ→い→う→え→お→あ...	⑦	ま→み→む→め→も→ま...
②	か→き→く→け→こ→か...	⑧	や→ゆ→よ→や→ゆ→よ→や...
③	さ→し→す→せ→そ→さ...	⑨	ら→り→る→れ→ろ→ら...
④	た→ち→つ→て→と→っ→た...	⑩	わ→を→ん→わ→わ...
⑤	な→に→ぬ→ね→の→な...	●※	°→°→°...
⑥	は→ひ→ふ→へ→ほ→は...	-	→、→。→!→?→・→ー...

※濁音、半濁音のある文字以外では入力できません。

半角/全角英数字入力モード

全角英数字入力モードの場合、全角文字になります。

キー	入力できる文字	キー	入力できる文字
①	A→B→C→a→b→c→l→A...	⑦	S→T→U→s→t→u→7→S...
②	D→E→F→d→e→f→2→D...	⑧	V→W→X→v→w→x→8→V...
③	G→H→I→g→h→i→3→G...	⑨	Y→Z→y→z→(半角スペース)→9→Y...
④	J→K→L→j→k→l→4→J...	⑩	-→+→/→0→-...
⑤	M→N→O→m→n→o→5→M...	●	*→%→\$→.→*...
⑥	P→Q→R→p→q→r→6→P...	-※	(半角入力時) -→(半角スペース)→-... (全角入力時) -

## ● 操作一覧

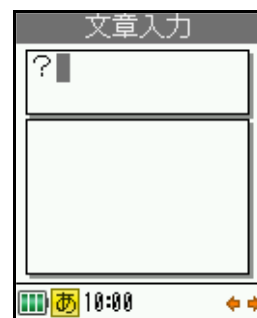
キー	状態		
	入力待ち	入力中	変換候補選択中
Ⓔ	元の画面に戻ります。文字入力欄の内容が元の画面に入力されます。	入力中の文字を無変換で確定します。	変換を確定して、入力待ち状態に戻ります。文節が残っている場合には、次の候補を表示します。
Ⓒ	カーソルの右側の1文字を削除します。	カーソルの右側の1文字を削除します。	変換を中止して、入力中の状態に戻ります。
▲	カーソル移動	反転している文節の変換候補を表示します。	候補を選択します。(上方向に移動します)
▼			候補を選択します。(下方向に移動します)
◀		(機能しません)	変換中の文節を1文字減らします。
▶		(機能しません)	変換中の文節を1文字増やします。
Ⓕ	記号一覧表示	(機能しません)	(機能しません)
Ⓖ	(機能しません)	全角かな／全角カナ／半角カナ切り替え	(機能しません)
Ⓕ	変換モード切り替え		

## ● 記号の入力

- 1 入力待ち状態でⒻキーを押します。  
変換候補表示欄に記号一覧が表示されます。



- 2 ○キーで選択して、Ⓔキーを押します。  
選択した記号が入力されます。



## ● 注意事項

- 変換前に入力できる文字数は全角20文字までになります。
- 区点コードや外字の入力はできません。

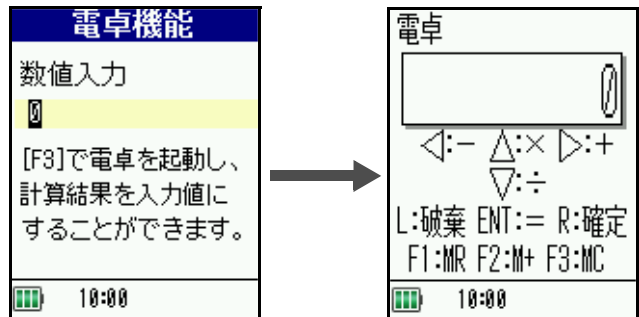
## 電卓機能

電卓機能での計算結果は端末アプリケーションに返すことができます。

### ■電卓を使用する

**1** **(F3)**キーを押します。

電卓画面が表示されます。

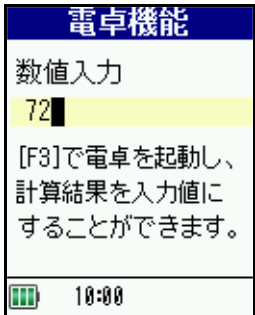


キー	記号	内容
<b>(1)~(9)</b>	数字	数字を入力します。
<b>(.)</b>	.	小数点を入力します。
<b>(←)</b>	—	加減乗除の演算をします。
<b>(↑)</b>	×	
<b>(→)</b>	+	
<b>(↓)</b>	÷	
<b>(ENT)</b>	=	
<b>(L)</b>	破棄	計算結果を破棄して、元の画面に戻ります。
<b>(R)</b>	確定	計算結果を戻り値として、元の画面に反映します。
<b>(F1)</b>	MR	メモリに記憶した数値を呼び出します。
<b>(F2)</b>	M+	表示している数値をメモリ内の数値に加算します。
<b>(F3)</b>	MC	メモリに記憶した数値を消去します。
<b>(C)</b>	C	一文字削除します。
<b>(C)長押し</b>	C長押し	全文字削除します。
<b>(+/-)</b>	—	プラス／マイナスの符号を切り替えます。

**2** 計算が完了したら、**(R)**キーを押します。

元の画面に戻ります。計算結果が入力されます。

計算結果を入力しない場合には、**(L)**キーを押します。



## 3-2 その他の機能

BT-600シリーズに搭載されている設定時や運用時に役立つさまざまな機能を説明します。

### 便利機能

指定した時刻に指定した端末アプリケーションを起動する「スケジュール機能」、指定した時刻に指定した方法でアラームを起動する「アラーム機能」、端末の紛失を防ぐ「紛失防止機能」について説明します。

### スケジュール機能

設定した時刻に指定した端末アプリケーションを実行する機能です。時刻により作業内容が異なるなど、端末アプリケーションを強制的に切り替えたい場合などに使用します。

最大8個までのスケジュールが設定できます。

システムメニューで設定します。

📖『システムメニュー操作マニュアル』



#### ⚠️ ポイント

- 事前にBT-600シリーズのドライブ1 (Flash ROM)に端末アプリケーションを転送しておく必要があります。  
転送の手順については、『データ転送ソフト操作マニュアル』を参照してください。
- 端末を操作中でも、スケジュール機能で設定した時刻になると自動的に起動します。ただし、ファイル処理中の場合は、ファイル処理が終了してから実行されます。
- スケジュール機能で起動した端末アプリケーションから元の端末アプリケーションに戻るスケジュール設定が必要になります。
- バックアップモード「省電」で電源をOFFにしているとスケジュール機能は使えません  
📖『省電力機能について』(1-24ページ)。

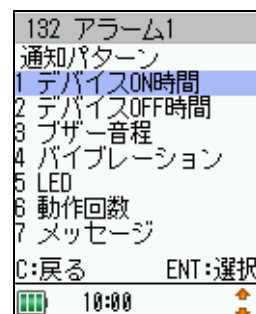
## アラーム機能

設定した時刻に、指定したパターンのブザー・バイブレーション・LED・メッセージボックス表示を、設定した動作時間だけ実行する機能です。作業者に始業を知らせるアラームなどとして使用できます。

最大8個のアラームが設定できます。

システムメニューで設定します。

□『システムメニュー操作マニュアル』



### ▶ 重要

- バックアップモード「省電」で電源をOFFにしているとスケジュール機能は使えません(□『省電力機能について』(1-24ページ))。
- アラームメッセージボックス表示中は、別のアラーム設定は起動しません。

## 紛失防止機能

BT-600シリーズが長期間操作されず放置されている場合に、ブザー・バイブレーション・LED・メッセージボックス表示をアラームとして実行する機能です。

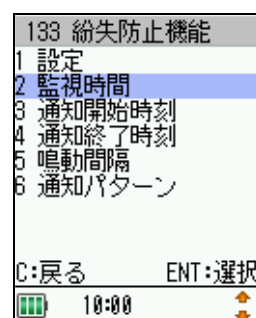
BT-600シリーズの紛失防止対策として便利です。

※放置状態とは、充電もキー操作もされていない状態を指します。

アラームは、通知パターンで設定した時間だけ実行され、その後、電源はOFFになります。ただし、鳴動間隔で設定した時間が経過すると、再度、アラームが実行され、これを繰り返します。

システムメニューで設定します。

□『システムメニュー操作マニュアル』



### ▶ 重要

バックアップモード「省電」で電源をOFFにしていると紛失防止機能は使えません(□『省電力機能について』(1-24ページ))。

## ウェイクアップ機能

ウェイクアップ機能とは、「データ転送ソフト」または「通信ライブラリ」を使用したPCアプリケーションから通信を開始すると、BT-600 シリーズが強制的に通信待機状態になり、ファイル送受信をおこなう機能です。BT-600シリーズが電源OFFの状態でも、強制的に電源をONして通信を開始します。

ウェイクアップ通信開始

受信中

完了後



### 重要

- ウェイクアップ機能を実行してファイル送受信が終了すると、BT-600 シリーズは再起動状態(アプリケーション先頭から開始する状態)になるため、それまでの操作が無効になります。運用で使用する際は十分にご検討ください。
- ウェイクアップ機能で送受信できるのは、ファイルのみです。
- バックアップモード「省電」で電源をOFFにしているとウェイクアップ機能は使えません(「省電力機能について」(1-24ページ))。
- Bluetooth経由での通信では、ウェイクアップ機能は使用できません。

### 参考

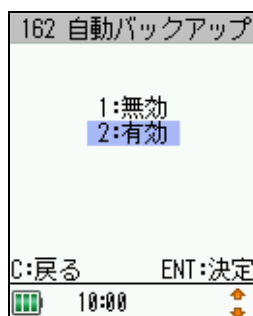
ウェイクアップ機能は、カスタマイズすると、使用しないように設定できます。



## 自動バックアップ機能

自動バックアップ機能は、ドライブ2のデータをドライブ1の空き領域にバックアップして、次の電源投入時にバックアップデータをドライブ2にリストアする機能です。

電池残量が減り、ドライブ2のデータが初期化される前にバックアップ機能が起動します。



### ▶ 重要

バックアップするドライブ2の領域分の空きがドライブ1にない場合や電池が外れた場合は、バックアップされません。

## MEMO

# 4

## 仕 様

---

BT-600シリーズとその周辺機器の仕様を記載しています。

---

4-1 仕 様 .....	4-2
4-2 外形寸法図 .....	4-7

## 一般仕様

### BT-600/600B

項目			仕様	
型式			BT-600	BT-600B
タイプ			バッチタイプ	バッチ/Bluetooth搭載タイプ
CPU			32bit RISC CPU	
内部記憶部	RAM容量		16MB(内ユーザエリア8MB)	
	Flash ROM容量		16MB(内ユーザエリア10MB)	
表示部	LCD	表示方式	1.77型 TFTカラーLCD 65,536色	
		表示ドット数	横128×縦160ドット	
		表示文字種	半角(英字、数字、カタカナ) 全角(JIS漢字第一水準、第二水準) ※等倍、縦倍角、4倍角、9倍角、16倍角、25倍角が可能	
		最大表示可能文字数	12×12ドットフォント	半角(等倍)…21桁×13行(ステータス表示時:11行) 全角(等倍)…10桁×13行(ステータス表示時:11行)
			14×14ドットフォント	半角(等倍)…18桁×11行(ステータス表示時:10行) 全角(等倍)…9桁×11行(ステータス表示時:10行)
			16×16ドットフォント	半角(等倍)…16桁×10行(ステータス表示時:8行) 全角(等倍)…8桁×10行(ステータス表示時:8行)
			12×20ドットフォント BT-500互換モード	半角(等倍)…21桁×8行(ステータス表示時:7行) 全角(等倍)…10桁×8行(ステータス表示時:7行)
		バックライト	高輝度白色LED	
LED	動作確認用		大型LED(赤、緑、橙)	
	充電確認用		LED(緑、赤)	
キー入力部	キーの種類		十字キー1個(4方向)、トリガキー1個、ファンクションキー3個、 多機能キー2個(L・R)、データ入力キー(テンキー、ENTキー、 クリアキー、マイナスキー、小数点キー)14個、電源キー1個	
スキャナ部	光学性能	光源	可視光半導体レーザ(655nm) 出力1.0mW クラス2レーザ製品(JIS C6802)	
		スキャン回数	100スキャン/秒	
		最小分解能	0.127mm、接触読みアタッチメント装着時:0.19mm	
		読取距離	56～536mm(ナローバー幅1.0mmの時) 36～216mm(ナローバー幅0.25mmの時)	
		PCS	0.45以上(スペース部の反射率70%以上)	
	対応バーコード		JAN/EAN/UPC(アドオンコード対応)、CODE128、 GS1-128、CODE39(フルASCII対応)、NW-7、CODE93、 ITF、インダストリアル2of5、COOP2of5、GS1 DataBar	
光シリアル通信	規格		IrDA Ver.1.2 物理層準拠	
	通信速度		9600/19200/38400/57600/115200 bps	
Bluetooth通信	規格		—	Bluetooth Ver2.1+EDR
	対応プロファイル		—	SPP、DUN-DT
	無線周波数		—	2.4GHz
	送信出力		—	クラス2(2.5mW以下)
	通信距離		—	見通し10m
通信ユニット通信部	通信速度		最大4Mbps(通信ユニット種別による)	

項目		仕様	
電源部	標準充電電池パック (BT-B60使用時)	種別	専用リチウムイオンバッテリーパック
		容量	3.7V, 1100mAh
		サイクル寿命	500回
		連続使用時間	約65時間※ <sup>1</sup>
	大容量充電電池パック (BT-B62使用時)	種別	専用リチウムイオンバッテリーパック
		容量	3.7V, 1880mAh
		サイクル寿命	500回
		連続使用時間	約110時間※ <sup>1</sup>
	乾電池パック (BT-B65使用時)	種別	アルカリ乾電池、ニッケル水素充電電池(充電不可)
		容量	単4電池×3本(専用乾電池パック使用)
		連続使用時間	アルカリ乾電池:約65時間※ <sup>1</sup> ニッケル水素充電電池:約50時間※ <sup>1</sup>
	副電池	種別	内蔵リチウム二次電池
		バックアップ時間	約25分
その他	ブザー		音階:16段階、音量:3段階
	バイブレーション		あり
	カレンダー		年、月、日、時、分、秒、月差±80秒(常温)
耐環境性	保護構造		IP54(JIS防沫型)
	耐落下		コンクリート上 2.0m※ <sup>2</sup>
	使用周囲温度		-5～+50℃(氷結しないこと)
	使用周囲湿度		35～85%RH(結露しないこと)
	保存周囲温度		-20～+60℃
	保存周囲湿度		35～85%RH(結露しないこと)
EMI		VCCI クラスB	
外形寸法	長さ		141.5mm
	幅 ( )内はグリップ部		49mm(40mm)
	厚さ( )内はグリップ部		標準充電電池装着時:24mm(20mm) 大容量充電電池装着時:24mm(24.5mm) 乾電池装着時:24mm(24.5mm)
質量		標準充電電池装着時:約140g 大容量充電電池装着時:約158g 乾電池装着時:約158g	

※1 常温、動作確認用LED、バイブレーション機能OFF、ブザーON(音量 小)、バックライトON(低輝度)、10秒間に2回バーコード読み取りをおこなった場合の連続使用時間です。

※2 試験値であり、保証値ではありません。

## バーコード読み取り桁数

BT-600シリーズのバーコード読み取り桁数は、ソフトウェアとしては以下の制限があります。  
(桁数が固定であるJAN/EAN/UPCを除きます。)

GS1 DataBar(RSS)については、それぞれのコードの桁数の制限に従います。

バーコードの種類	桁数	桁数の数え方
CODE39、NW-7	3～50 <sup>※1</sup>	スタート／ストップキャラクタを含む。
ITF	2～50 <sup>※2</sup>	偶数桁のみ
インダストリアル2of5 COOP2of5	1～50	
CODE128 GS1-128(EAN-128)	1～100	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタート／ストップコード、チェックデジットは含まない。</li> <li>FNC1～4、SHIFT、CODE-A～Cは含む。</li> <li>スタートコードがCODE-Cの場合、数字2桁を1桁とカウントする。</li> </ul>
CODE93	1～50	スタート／ストップコード、チェックデジットは含まない。

※1 初期状態でのNW-7の読み取り桁数については、4～50桁となっています。4桁未満の場合は、プログラムによる設定変更が必要です。

※2 初期状態でのITFの読み取り桁数については、4～50桁となっています。これよりも少ない桁数の場合は、プログラムによる設定変更が必要です。

### ▶ 重要

上記はソフトウェア上の制限であり、この範囲の桁数すべての読み取りを保証するものではありません。必ず使用するバーコードで読み取りテストを実施してください。

## 通信ユニット

## ●BT-UC6U、BT-UC6R、BT-UC6L

項目			仕様		
型式			BT-UC6U	BT-UC6R	BT-UC6L
通信部	規格		USB2.0 High Speed (仮想COM)	RS-232C準拠	10BASE-T、100BASE-TX
	通信速度		4Mbps	115200 bps	MODE1:878900 bps、 MODE2:115200 bps
BT-MD1(アナログモデム)用供給電源			—	DC5V 0.2A※	—
充電部	充電方式		定電流定電圧方式		
	充電時間	BT-600	標準充電機(BT-B60):約3時間 大容量充電機(BT-B62):約5.5時間		
電源部	入力 I/F		DC7V 1.4A		
	出力 I/F		DC7V 1.4A		
耐環境性	使用周囲温度		0～+40℃(氷結しないこと)		
	使用周囲湿度		35～85%RH(結露しないこと)		
	保存周囲温度		-20～+60℃(氷結しないこと)		
	保存周囲湿度		35～85%RH(結露しないこと)		
EMI			VCCI クラスB		
外形寸法			65×102×103mm		
質量			約240g		
ACアダプタ	電源部	入力 I/F	AC100～120V 50/60Hz 23VA		
		出力 I/F	DC7V、最大1.4A		
仕様	外形寸法		48.5×63.5×31.1mm(ケーブル部除く)		
	質量		約130g(ケーブル含む)		

※RS232Cコネクタ(D-sub9p)の9番ピンより供給されます。

## 充電電池パック

## ■BT-B60/B62

項目		仕様	
型式		BT-B60	BT-B62
電池	種別	リチウムイオン二次電池	リチウムイオン二次電池
	公称電圧	3.7V	3.7V
	公称容量	1100mAh	1880mAh
耐環境性	使用周囲温度	-5～+50℃ 充電時0～+40℃(氷結しないこと)	
	使用周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)	
	保存周囲温度	-20～+60℃(氷結しないこと)	
	保存周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)	
外形寸法		54×36×7.5mm	54×36×12mm
質量		約27g	約42g

## 充電ユニット

## ■BT-UC65

項目			仕様
型式			BT-UC65
充電部	充電方式		定電流定電圧方式
	充電時間	BT-500	約3時間
		BT-600	標準充電池 (BT-B60) : 約3時間
			大容量充電池 (BT-B62) : 約5.5時間
耐環境性	使用周囲温度		0～+40℃ (氷結しないこと)
	使用周囲湿度		35～85%RH (結露しないこと)
	保存周囲温度		－20～+60℃ (氷結しないこと)
	保存周囲湿度		35～85%RH (結露しないこと)
EMI			VCCIクラスB
外形寸法			68×305×108mm
質量			600g
専用ACアダプタ	電源部	入力 I/F	AC100～240V 50/60Hz 88VA
		出力 I/F	DC7.6V、最大4A
仕様	外形寸法		62×99×26mm
	質量		320g

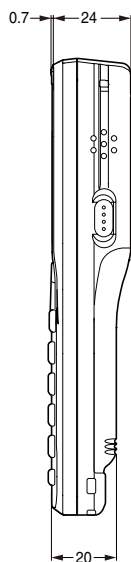
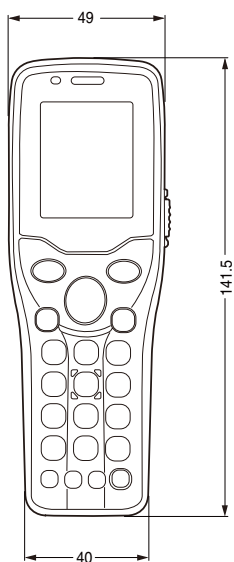
## ■BT-CG35

項目		仕様
型式		BT-CG35
充電部	充電方式	定電流定電圧方式
	充電時間	標準充電機：約2.5時間(常温)、大容量充電機：約4.5時間(常温)
充電確認LED		2色LED(赤：充電中、緑：充電完了)
耐環境性	使用周囲温度	0～+40℃(氷結しないこと)
	使用周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
	保存周囲温度	－20～+60℃(氷結しないこと)
	保存周囲湿度	35～85%RH(結露しないこと)
EMI		VCCIクラスA
外形寸法		83×214×79.2mm
質量		約500g
専用ACアダプタ仕様	入力側	AC100～240V 50/60Hz 41～55VA
	出力側	DC12V、最大1.5A
	外形寸法	107×50×31mm(ケーブル部除く)
	質量	約280g(ケーブル含む)

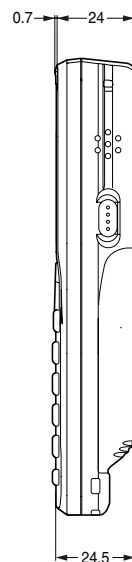


## 4-2 外形寸法図

### ■BT-600/600B



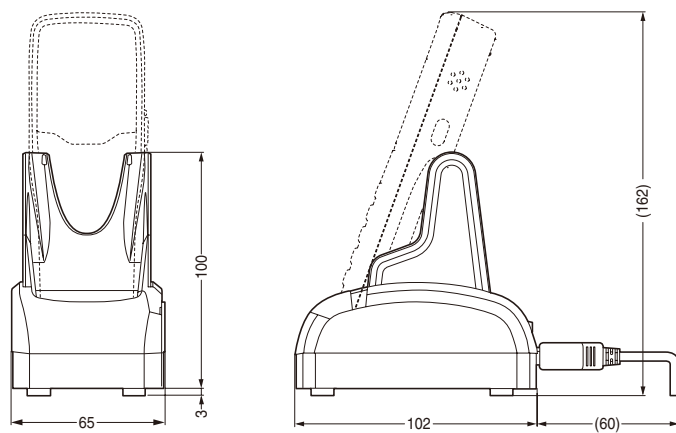
BT-B60装着時



BT-B62/B65装着時

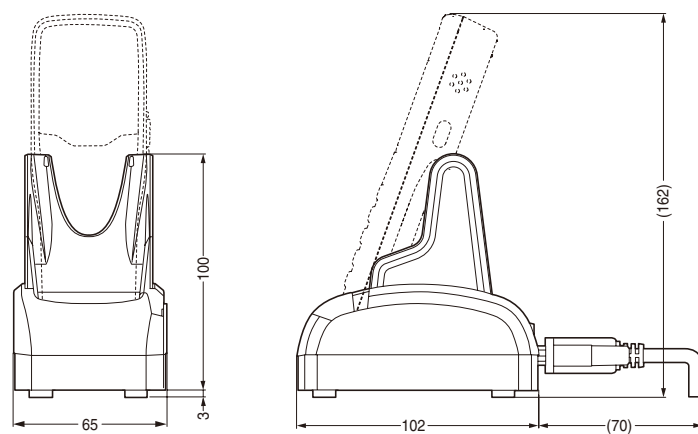
(単位:mm)

■BT-UC6U/UC6L



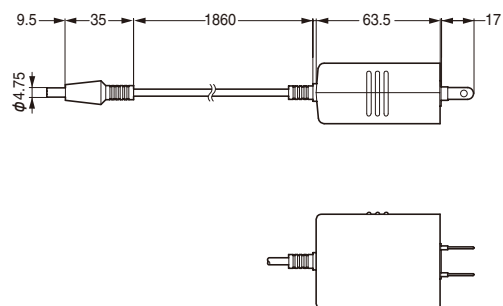
(単位:mm)

■BT-UC6R



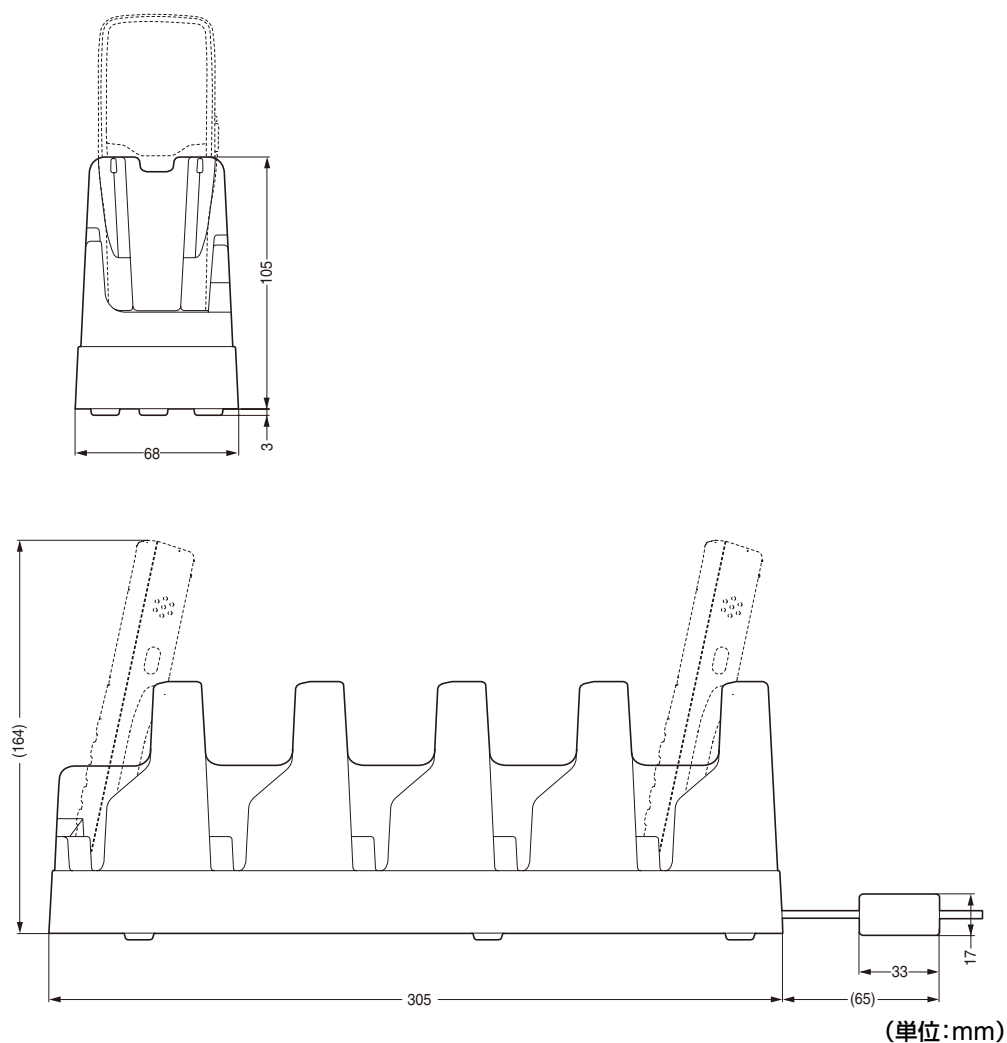
(単位:mm)

■BT-UC6U/UC6R/UC6L用ACアダプタ

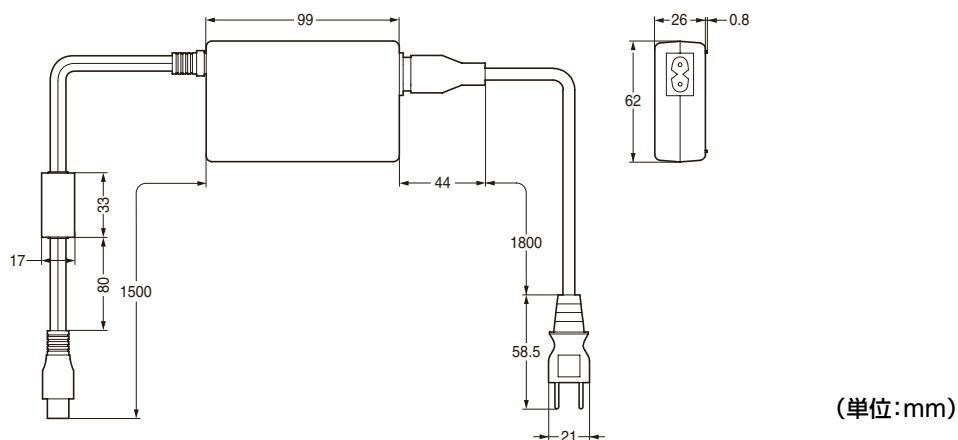


(単位:mm)

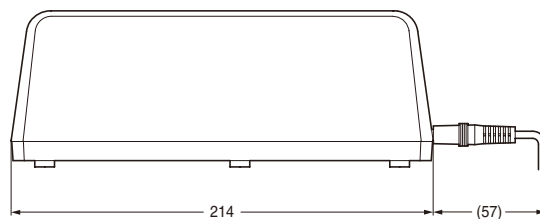
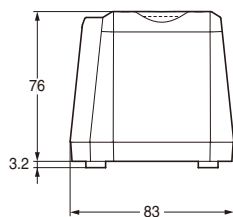
## ■BT-UC65



## ■BT-UC65用ACアダプタ

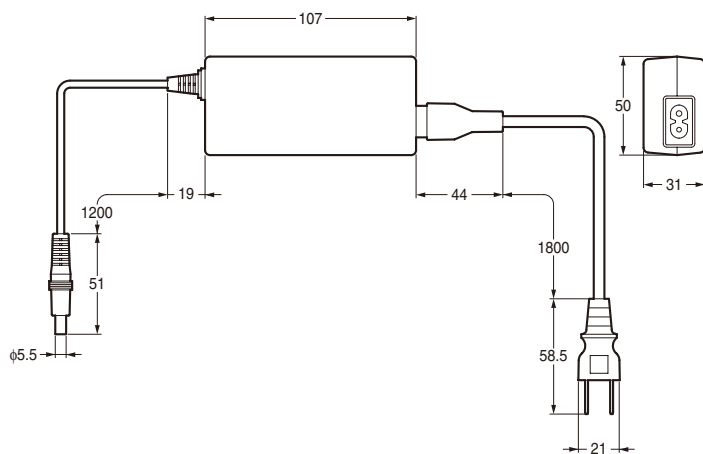


■BT-CG35



(単位:mm)

■BT-CG35用ACアダプタ



(単位:mm)

# 付 録

---

エラー表示についての説明およびテスト用のバーコード、索引を収録しています。

---

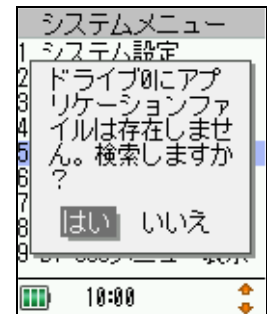
1	BT-600シリーズのエラー表示 .....	付-2
2	BT-UC6RのRS-232Cピン配置 .....	付-3
3	テスト用バーコード .....	付-4
4	索 引 .....	付-6

### ■ 端末アプリケーションなしメッセージ

端末アプリケーションがドライブ0にない場合に表示されます。

端末アプリケーションをドライブ0に転送してください。

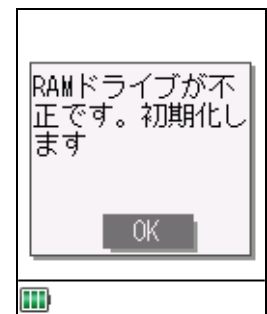
BTアプリケーションビルダから転送する場合は、「システムソフトを転送する」にチェックを入れてください。



### ■ ドライブ2フォーマットエラーメッセージ

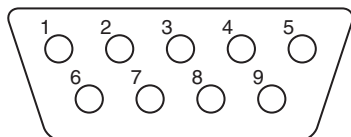
初めてBT-600シリーズの電源を入れたときや、本体内蔵のバックアップ用副電池の容量がなくなったときは、本体内のRAM(ドライブ2)を初期化するメッセージが表示されます。

このとき、日付と時刻はクリアされている場合がありますので、システムメニューで日付/時刻設定をしてください。または、サーバPCとの通信時におこなわれる自動日付/時刻合わせを利用してください。



BT-UC6RのRS-232Cポートのピン配置を説明します。

## ■ピン配置



D-sub9ピンコネクタ(オス)  
#4-40ネジ(メス)

ピン番号	信号名	説明	信号の方向
2	SD(TXD)	データ送信	出力
3	RD(RXD)	データ受信	入力
5	SG	信号グラウンド	—
9	—	BT-MD1用電源出力(+5V)	出力

※上記以外のピンは未接続です。

### ！ポイント

- パソコン、BT-MD1との接続は、付属のRS-232Cケーブルをご使用ください。
- 9番ピンは、BT-MD1専用の電源出力線になります。BT-UC6Rを使用した場合、電源が供給されるため、BT-MD1はACアダプターを使用する必要がありません。
- BT-UC6Rで、BT-MD1以外と接続する場合は、9番ピンから電源が出力されるため、接続先機器の仕様をご確認ください。電源の入力を避ける必要がある場合、9番ピンを抜いたジェンダーチェンジャーを接続機器との間に使用するなど対策の実施をお願いします。

# 3 テスト用バーコード

テスト用として以下のバーコードをご使用ください。

CODE39



ITF



JAN



NW-7



CODE128



GS1-DataBar(RSS-14)



GS1-DataBar(RSS-14 Stacked)



GS1-DataBar(RSS-14 Limited)



付

記録



MEMO

付

5

# 4 索引

本書で使用している用語の索引です。アルファベット、五十音順に並んでいます。

## 英数

5連充電ユニット	1-3, 1-11
ACアダプタ接続端子	1-10
Bluetooth	1-6
Bluetooth接続状態	1-9
Bluetooth搭載携帯電話を使用した 遠隔地通信	2-9, 2-14
BT-600	9
BT-600B	9
BT-B60	9
BT-B62	9
BT-B65	9
BT-CG35	9
BT-H10W	9, 2-6
BT-HD10	9, 2-7
BT-HD10L	9
BT-Navigator	1-5
BT-UC65	9
BT-UC6L	9
BT-UC6R	9
BT-UC6U	9
BT-UC6U用ACアダプタ	1-3
BT専用アナログモデムBT-MD1	2-15
BT専用アナログモデムBT-MD1を使用した 遠隔地通信システム	2-9
COMポート番号を変更する	1-29
Cキー	1-7
C言語アプリケーション開発キット	1-5
C言語統合開発環境	1-5
ENTキー	1-7
LAN通信ユニット	1-3, 1-11
LAN通信ユニット接続状態	1-9
Lキー/Rキー	1-7
MODE1	1-11
MODE2	1-11
RS-232C通信ユニット	1-3, 1-10
USBケーブル	1-3
USB通信ユニット	1-3, 1-10
USBドライバのアンインストール方法	1-28
USBドライバのインストール方法	1-25
USBポート	1-10

## あ

アナログモデムを使用した 遠隔地通信システム	2-15
アラーム機能	3-13
ウェイクアップ機能	3-14
液晶表示部	1-6
エラー表示	付-2

## か

外形寸法図	4-7
乾電池パック	1-2
乾電池パックの取り付けと交換方法	1-22
キー操作部	1-6, 1-7

## さ

サーバPC/運用PC/開発PC	2-4
サーバPCアプリケーション開発環境 (BT-H10W)	2-4
システム構成	2-2
システム構築方法	2-9
自動バックアップ機能	3-15
シフト/変換モード表示	1-8
十字キー	1-7
充電確認LED	1-6
充電端子	1-6, 1-10
充電用5連充電ユニット	1-4, 1-12
仕様	4-2
省電力機能について	1-24
スキャナ部	1-6
スクロールガイド表示	1-9
スケジュール機能	3-12
ストラップ取付穴	1-6
赤外線通信ポート	1-6
接触読みアタッチメント	1-4
接触読みアタッチメントの取り付け方法	1-13
ソケット通信/FTPを使用した システム	2-9, 2-11
ソフトウェア一覧	2-6

## た

大容量充電電池パック	1-2
チャージLED	1-12
通信端子	1-6, 1-10
通信状態	1-9
通信ユニットの設定	1-25
「通信ライブラリ」を使用した ファイル送受信システム	2-9, 2-13
「データ転送ソフト」を使用した ファイル送受信システム	2-9, 2-12
テスト用バーコード	付-4
テンキー	1-7
電卓機能	3-11
電池端子	1-6
電池取付カバー	1-6
電池取付部	1-6
動作確認LED	1-6
動作確認済み携帯プリンタ	2-4
動作環境	2-4
時計表示	1-8
トリガキー	1-6

## な

ネットワーク設定	1-31
----------	------

## は

バーコード合成読み取り機能	3-5
バーコードの読み取り方	3-2
バーコード読み取り桁数	4-4
パッキンの点検	1-15
バックアップ用副電池	1-14
バッテリー表示	1-8
標準充電電池パック	1-2
標準充電電池パック用スペーサ	1-4
ファイルアクセス表示	1-9
ファンクションキー	1-7
ブザー穴	1-6
紛失防止機能	3-13
便利機能	3-12

## ま

マニュアル一覧	2-18
文字の入力方法	3-6
モデム接続状態	1-9

MEMO

付

記録

---

MEMO

付

付録

# 改訂履歴

印刷年月日	版 数	改 訂 内 容
2011年12月	初 版	
2011年12月	2 版	

# 保証について

## 1. 対象製品

以下に規定する保証は、当社が製造・販売する製品(以下「対象製品」という)に適用します。  
なお、対象製品に内蔵されているリレーや電池などの消耗品は対象外とさせていただきます。

## 2. 保証期間

対象製品の保証期間は、貴社のご指定場所に納入後1年間とします。

## 3. 保証範囲

- (1) 上記保証期間内に当社の責任による故障が発生した場合は、無償での代替品との交換または修理をさせていただきます。但し、保証期間内であっても、次に該当する故障の場合は保証対象外とさせていただきます。なお、代替品との交換または修理を行なった場合でも保証期間の起算日は対象製品の当初ご納入日とさせていただきます。
  - ① 取扱説明書、ユーザーズマニュアル、別途取り交わした仕様書などに記載された以外の不適当な条件・環境・取り扱い・使用方法に起因した故障。
  - ② お客様の装置または、ソフトウェアの設計内容など、対象製品以外に起因した故障。
  - ③ 当社以外による改造、修理に起因した故障。
  - ④ 取扱説明書、ユーザーズマニュアルなどに記載している消耗部品が正しく保守、交換されていれば、防止できたと確認できる故障。
  - ⑤ 当社出荷時の科学・技術水準では、予見が不可能だった事由による故障。
  - ⑥ その他、火災、地震、水害などの災害及び電圧異常など当社の責任ではない外部要因による故障。
- (2) 保証範囲は上記（１）を限度とし、対象製品の故障に起因するお客様での二次損害（装置の損傷、機会損失、逸失利益等）及びいかなる損害も保証の対象外とさせていただきます。

## 4. 適用用途

当社製品は、一般工業向けの汎用品として設計・製造されております。  
従いまして、下記のような用途での使用は意図しておりませんので適用外とさせていただきます。  
ただし、事前に当社までご相談いただき、お客様の責任において製品の仕様をご確認のうえ、定格・性能に対してご了承いただき、必要な安全対策を講じていただく場合は適用可能とさせていただきます。  
なお、この場合においても保証範囲は上記と同様といたします。

- ① 原子力発電、航空、鉄道、船舶、車両、医療機器等の人命や財産に多大な影響が予想される設備
- ② 電気、ガス、水道等の公共設備
- ③ 屋外での使用および、それに準ずる取扱説明書などで規定していない条件・環境での使用
- ④ 上記①及び②に準じる安全に関して高度な配慮と注意が要求される用途

全商品、送料無料で

**当日出荷**

必要な時に、必要な量だけ

在庫不要でトータルコストを削減

■ お問い合わせ **0120-267-911**  
最寄りの担当営業所に直接つながります。

■ 情報サービス [www.keyence.co.jp](http://www.keyence.co.jp)  
カタログ、取扱説明書、マニュアル、CADデータ等をダウンロードできます。

■ 輸出書類サービス [www.keyence.co.jp/yushutsu](http://www.keyence.co.jp/yushutsu)  
輸出に必要な書類をその場でダウンロードできます。

**株式会社 キーエンス**

本社・研究所／自動認識事業部  
〒533-8555 大阪市東淀川区東中島1-3-14

仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

自動2-1030

Copyright© 2011 KEYENCE CORPORATION.  
All rights reserved.

1121-2 136166